

# 社会保育学科

<社会保育科目>

区分		科目名	頁
専門基礎分野	子どもの健康	感染微生物学	1
		公衆衛生学	2
		医療概論	3
		食生活論	4
	社会保育の理念	子どもの権利	5
		人権と法	6
		家族社会学	7
		社会福祉概論	8
		社会保育論	9
専門分野	社会保育	保育システム論	10
		保育経営論	11
		社会保育論演習	12
		保健医療福祉連携論	13
	保育の基礎理論	保育原理	14
		教育原理	15
		教職概論(幼稚園)	16
		子ども家庭福祉Ⅰ	17
		子ども家庭福祉Ⅱ	18
		子ども家庭支援論	19
		社会的養護Ⅰ	20
		保育者論	21
		幼児教育史	22
		教育法概論	23
		生涯学習論	24
	保育の対象理解	発達心理学	25
		子ども教育心理学	26
		子どもの保健	27
		子どもの食と栄養	28
		子ども家庭支援の社会・心理学	29
	保育の内容の方法	保育指導論	30
		保育内容総論	31
		保育内容・言葉	32
		保育内容・人間関係	33
		保育内容・環境Ⅰ	34
		保育内容・環境Ⅱ	35
		保育内容・健康Ⅰ	36
		保育内容・健康Ⅱ	37
		保育内容・表現Ⅰ	38
		保育内容・表現Ⅱ(音楽)	39
		保育内容・表現Ⅱ(造形)	40
		保育内容・表現Ⅱ(言語)	41

<社会保育科目>

区分	科目名	頁	
専門分野	保育の内容の方法	乳児保育Ⅰ	42
		乳児保育Ⅱ	43
		就学児保育A（思春期の支援）	44
		就学児保育B（学童保育）	45
		病児・病後児保育	46
		子どもの健康と安全	47
		社会的養護Ⅱ	48
		子育て支援	49
		子ども理解と教育相談	50
		児童文化演習	51
		自然保育実践演習	52
		保育の教材研究	子どもと言葉
	子どもと環境		54
	子どもと音楽表現Ⅰ		55
	子どもと音楽表現Ⅱ		56
	保育者の音楽技能（ギター）		57
	子どもと造形表現Ⅰ		58
	子どもと造形表現Ⅱ		59
	子どもと健康		60
	子どもと人間関係		61
	児童文化		62
	障がい児の保育・教育	特別な教育的ニーズの理解とその支援	63
		障がい児福祉	64
		障害児支援の基礎理論	65
		知的障害者の心理・生理・病理	66
		肢体不自由者の心理・生理・病理	67
		病弱者の心理・生理・病理	68
		知的障害者教育課程論	69
		知的障害者教育方法論	70
		肢体不自由者教育課程論	71
		肢体不自由者教育方法論	72
		病弱者教育論	73
		視覚障害者教育総論	74
		聴覚障害者教育総論	75
重複障害・発達障害の評価		76	
重複障害・発達障害の教育		77	
障害児教育実習事前事後指導		78	
障害児教育実習	79		
保育の実践	保育指導論演習	80	
	家庭支援実践演習	81	
	地域との協働Ⅰ	82	
	地域との協働Ⅱ	83	
	地域との協働Ⅲ	84	

<社会保育科目>

区分		科目名	頁
専門分野	保育の実践	教育実習	85
		教育実習指導	86
		保育実習Ⅰ	87
		保育実習指導Ⅰ	88
		保育実習Ⅱ	89
		保育実習指導Ⅱ	90
		保育実習Ⅲ	91
		保育実習指導Ⅲ	92
	専門研究	卒業研究	93
		教職・保育実践演習	94
		専門演習Ⅰ	95
		専門演習Ⅱ	96

科 目 名	感染微生物学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学 習 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。					
授 業 の 概 要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。					
授 業 の 計 画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。			90分	
授 業 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単に知識を暗記するのではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。					
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教 科 書 （購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）					
参 考 書 （購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院					

科 目 名	公衆衛生学		担当教員名	荻野 大助		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。					
授業の概要	「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。					
授業の計画	1 公衆衛生の歴史 2 疫学の基本事項 3 衛生統計／健康水準・健康指標 4 感染症とその予防 5 食品と栄養 6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 7 医療制度（行政、資源、医療費） 8 地域保健（保健所と市町村保健センター） 9 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 10 学校保健 11 生活習慣病① 12 生活習慣病② 13 難病と精神保健 14 産業保健（労働衛生） 15 健康危機管理（災害と健康）					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に目を通す。			60分	
	復習	課題に取り組み、整理ノートを活用して整理する。			60分	
授業の留意点	他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。 ※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔（ハイフレックス形式）へ変更の場合有。					
学生に対する評価	課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う。 ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。					
教科書（購入必須）	清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2023/2024年）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	医学概論		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。					
授 業 の 概 要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージにおける心身の特徴</li> <li>2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）器官</li> <li>4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器</li> <li>5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器</li> <li>6 身体構造と心身の機能（4）消化器・神経</li> <li>7 身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器</li> <li>8 身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚</li> <li>9 身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器</li> <li>10 疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序・リハビリテーション、感染症</li> <li>11 疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患</li> <li>12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患</li> <li>13 疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患</li> <li>14 疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患</li> <li>15 疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。図書館での参考書や関連図書の利用を勧める。			90分	
授 業 の 留 意 点	教科書、参考書、講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教 科 書 （購入必須）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021年）					
参 考 書 （購入任意）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院（2015年）					

科 目 名	食生活論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目					
学習到達目標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。					
授業の概要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。 後半は日本における食文化を概観し、地域家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本における食生活の変遷</li> <li>2 日本における食生活の現状</li> <li>3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>4 地域における幼児児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>5 家庭食の変遷</li> <li>6 学校給食の変遷</li> <li>7 日本の食文化・地域の食文化</li> <li>8 幼児・児童生徒の食物アレルギー</li> <li>9 「食事バランスガイド」について</li> <li>10 地場産物と給食①</li> <li>11 地場産物と給食②</li> <li>12 演習①関心のある地域の地場産物を食べる</li> <li>13 演習②給食における地場産物の活用を考える</li> <li>14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える</li> <li>15 演習④地場産物についての発表、レポート提出</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って新聞・ネットなどで予習する。			90 分	
	復習	配布資料・GW の内容に沿って授業を振り返る。			90 分	
授業の留意点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。					
学生に対する評価	発表レポート 40 点・毎回授業のGW と振り返りレポート 60 点により総合的評価する。					
教科書 (購入必須)	適宜、資料等を配布する。					
参考書 (購入任意)						



科 目 名	子どもの権利	担当教員名	栞山 茂樹
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
開講形態		資格要件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	子ども法についての専門知識を身につける。 子どもの人権問題に対し、法制度を通じて取り組む視点を学ぶ。		
授業の概要	<p>「子ども法」という法分野について学ぶ。この分野は近年、こども基本法が制定されるなど、著しい発展を遂げている。</p> <p>講義の前半では、子ども法の基礎となる「子どもの権利条約」についてとりあげる。後半では、現代日本の子どもの人権問題と、それらに対応する個々の法制度について解説する。子どもの人権問題に取り組むのに、個人の努力だけでは限界がある。法制度を通じて国の支援を得ることが大きな成果につながる。</p>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 「子どもの人権」とは</li> <li>3 子ども法の体系</li> <li>4 子ども権利条約①：条約の成立背景、履行制度</li> <li>5 子ども権利条約②：条約の基本4原則</li> <li>6 子ども権利条約③：他の主要規定、関連条約規定</li> <li>7 子ども権利条約④：日本法への影響</li> <li>8 子ども権利条約⑤：日本政府報告書審査</li> <li>9 子ども人権問題①：いじめ</li> <li>10 子ども人権問題②：体罰</li> <li>11 子ども人権問題③：虐待</li> <li>12 子ども人権問題④：障害のある子ども</li> <li>13 子ども人権問題⑤：子どもの貧困</li> <li>14 子ども人権問題⑥：少年司法</li> <li>15 子ども人権問題⑦：外国人の子ども</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定参考書を読む。	90分
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・行政文書を読むのに慣れる。政府機関、裁判所等のWebサイトに目を通す。	90分
授業の留意点	私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「日本国憲法」「教育法概論」のいずれとも関連が深い。特に「教育法概論」と併せて履修してもらうことを強く望む。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。		
学生に対する評価	期末試験(100%)		
教科書(購入必須)	なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。		
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第2版】』(明石書店、2017)</li> <li>・丹羽徹『子どもと法』(法律文化社、2016)</li> <li>・荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』(日本評論社、2015)</li> <li>・棚村政行『子どもと法』(日本加除出版、2012)</li> <li>・喜多明人ほか編『逐条解説 子どもの権利条約』(日本評論社、2009)</li> </ul> そのほか参考文献を適宜紹介する。		

科目名	人権と法		担当教員名	栞山 茂樹		
学年配当	2年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択		資格要件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解し、論じられるようになる。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。					
授業の概要	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。現代日本の人権問題について、ジャーナリスティックな時事評論ではなく法学の専門的見地から議論していく。現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 人権と法制度：人権思想、人権と実定法</li> <li>3 人権と憲法</li> <li>4 憲法上の権利</li> <li>5 外国人の人権①：入管法のしくみ</li> <li>6 外国人の人権②：最高裁判例の動向</li> <li>7 外国人の人権③：ヘイトスピーチの現況</li> <li>8 三菱樹脂事件ほか：私人間効力論</li> <li>9 公安テロ情報流出事件：プライバシー権ほか</li> <li>10 生命・身体・リプロダクション：自己決定権</li> <li>11 婚外子差別：法の下での平等</li> <li>12 夫婦同氏訴訟：婚姻の自由</li> <li>13 同性婚訴訟ほか：LGBTQ+の人権</li> <li>14 立川反戦ビラ訴訟ほか：政治的表現の自由</li> <li>15 二風谷ダム事件：少数民族の権利</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定参考書を読む。			90分	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所などのWebサイトに目を通す。			90分	
授業の留意点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。					
学生に対する評価	期末試験(100%)					
教科書(購入必須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。					
参考書(購入任意)	独習用のテキストとして、以下を紹介する。 ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018) ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021) ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。 そのほか、参考文献を適宜紹介する。					

科 目 名	家族社会学		担当教員名	小野寺 理佳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸問題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 現代家族の成立の歴史について基本的知識を取得し説明することができる。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。					
授 業 の 概 要	家族社会学は社会学の一分野であり、様々な家族問題を深く理解し、実践に活かすために参照される学問である。授業では、社会そして家族集団において人々が多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なることをまず理解する。そして、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、制度、人権、福祉、倫理など様々な視点から家族事象を考察し、家族の多様化とそれにまつわる諸問題を社会構造に関わらせながら理解、説明していく力を養うことを目指す。					
授 業 の 計 画	1 家族ってなに？家族って誰？ (1) あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？ (2) 誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生 (1) 近代家族の特徴 4 近代家族の誕生 (2) 近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ (1) 家族の変容 6 近代家族の揺らぎ (2) 家族を選択する時代 7 家族の現在 (1) 家族に何を求めるか 8 家族の現在 (2) 自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族 (1) 恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族 (2) 近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係 (1) 生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係 (2) 父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場 (1) 自由を制限するもの 14 生殖技術と市場 (2) 自由と自己責任 15 コ・ハウジング					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキストの該当箇所・関連箇所を読む。				
	復習	テキストの該当箇所・関連箇所を確認しながら、配布資料をもとに授業内容を振り返る。配布資料内で示した URL から関連情報（統計データや新聞記事など）を取得し、授業内容の理解を深める。				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。</li> <li>・リアクションペーパーの提出を求めることがある。</li> <li>・公的統計・新聞記事・調査研究報告など、家族に関して、インターネット上で得られる情報はたくさんある。それらの情報を活用して問題意識を育ててほしい。</li> </ul>					
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する（100点）。					
教 科 書 (購入必須)	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』【第2版】 ミネルヴァ書房 2016年					
参 考 書 (購入任意)						

科 目 名	社会福祉概論		担当教員名	小山 貴博		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。社会福祉と子ども福祉および子どもの人権や家庭支援との関係性について理解する。さらに、貧困問題を取り上げ、私たちの暮らしの中で貧困問題が他人事ではないことも併せて理解する。そして社会福祉の制度や実施体系等について理解する。最後に社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解したうえで、社会福祉の動向と課題について理解する。					
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、制度や実施体系等について理解する。社会福祉と子ども福祉および子どもの人権や家庭支援との関係性について学ぶ。さらに、貧困問題が私たちの暮らしの中において、現実的な問題であることについて学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクション：社会福祉とは何か（保育と社会福祉）</li> <li>2 平和・人権・福祉</li> <li>3 社会福祉の基本理念および法体系</li> <li>4 私たちの暮らしの現実と社会福祉①-日本社会における貧困問題の概要-</li> <li>5 私たちの暮らしの現実と社会福祉②-女性の貧困 -</li> <li>6 私たちの暮らしの現実と社会福祉③-孤独死-</li> <li>7 私たちの暮らしの現実と社会福祉④-奨学金問題-</li> <li>8 子ども家庭福祉①</li> <li>9 子ども家庭福祉②</li> <li>10 高齢者の生活問題と社会福祉</li> <li>11 障がい者の生活問題と社会福祉</li> <li>12 社会福祉施設</li> <li>13 社会保障および関連制度の概要</li> <li>14 社会福祉援助の意義と方法</li> <li>15 海外の社会福祉、まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	子どもの貧困、女性の貧困にかかわる映像を YouTube で検索、視聴する。			90分	
	復習	講義を振り返り、予習内容を発展させる。			90分	
授業の留意点	(1) 社会福祉問題（生活問題、少子・高齢化問題、障がい者問題、貧困問題等）に焦点をあて現状の認識を深め、今後の社会福祉の課題や展開について考える。 (2) 講義中に関係無い私語は、他学生の講義を受ける権利を侵害するため、厳禁とする。					
学生に対する評価	筆記試験（100%）					
教科書（購入必須）	講義の中で適宜紹介する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	社会保育論		担当教員名	小山 貴博・塚本 智宏・猪熊 弘子	
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。				
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	学科理念である「平和・人権・異文化理解」を共通理念とする者同士が、保育を主たる切り口として、日本社会の抱える構造的矛盾について検証・考察する力を獲得する。そのうえで、本学科の目指す社会保育とは何なのか。学生と教職員が一丸となって、社会保育という定義の構築ならびに提言を目指す。				
授 業 の 概 要	本学科の名称でもある「社会保育」について、「社会保育とは何なのか」を学生と教職員が一体となって検討、議論を行う。また本学科の理念である「平和・人権・異文化理解」をもとにして、社会保育を捉えなおすことを目的とする。平和の実現、人権の尊重、異文化に対する理解というのは、「善」として受け取られる。他方で、日本や世界の状況についてみると、いかにこれら理念の実現に困難が伴うのか、理解できる。こうした社会の抱える構造的矛盾を理解したうえで、「私達名寄市立大学にて過ごす人々」として、保育をはじめとした望ましい子育て支援が”どのようなもの”であり、”どのように行う”責務があるのか、共に考える機会とする。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション：(小山) 2 学科理念「平和・人権・異文化理解」と社会保育(小山) 3 日本社会の抱える構造的矛盾①-システムと生活世界-(小山) 4 日本社会の抱える構造的矛盾②-文化的再生産-(小山) 5 日本社会の抱える構造的矛盾③-子どもと貧困-(小山) 6 J. コルチャックの人権思想①-子ども=すでに人間という思想の形成-(塚本) 7 J. コルチャックの人権思想②-子どもの権利・人権思想としての成熟-(塚本) 8 J. コルチャックの人権思想③-世紀転換と子どもの権利思想-(塚本) 9 J. コルチャックの人権思想④-孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践-(塚本) 10 J. コルチャックの人権思想④-孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践-(塚本) 11 J. コルチャックの人権思想⑤-子どもの権利条約・権利条例・まちづくり-(塚本) 12 保育制度の現状と課題①(猪熊) 13 保育制度の現状と課題②(猪熊) 14 子育ての社会保障①(猪熊) 15 子育ての社会保障②(猪熊)				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	日本の抱える潜在的な領土問題、子どもに対する多岐にわたる虐待や人権問題・世界の紛争や民族問題自分なりに検証・考察を加える。			90分
	復習	講義内容を振り返り、予習内容を発展させる。			90分
授 業 の 留 意 点	日本のみならず、世界情勢のニュースに関心を持つようにする。 学科理念を自分なりに、捉えなおす。 講義は対面、場合によっては、オンデマンドやオンライン双方向で実施する。				
学 生 に 対 す る 評 価	最終レポート：100%				
教 科 書 (購 入 必 須)	講義時に適宜資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	保育システム論		担当教員名	長津 詩織		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	日本における保育システムの歴史的変遷、現状、課題、将来的な方向等を論理的、客観的に明らかにすることができる。					
授業の概要	本講義では、保育をめぐる状況の変化から保育システム変動の時期を迎えている現在の状況をふまえて、保育政策・制度などの視点から、保育システムの歴史的変遷と現代の動向および課題について学び、考察する。また、諸外国の制度・政策を視野に入れ、日本の保育制度・政策についての検討も行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス</li> <li>2 保育システムとは</li> <li>3 働きながら子育てする①</li> <li>4 働きながら子育てする②</li> <li>5 社会の中の保育者</li> <li>6 保育者の労働環境</li> <li>7 諸外国の保育の現状</li> <li>8 ここまでのまとめ</li> <li>9 日本の保育システムの変遷</li> <li>10 子ども・子育て新制度の背景</li> <li>11 子ども・子育て新制度の現状</li> <li>12 子ども・子育て新制度の課題</li> <li>13 これからの保育システム①</li> <li>14 これからの保育システム②</li> <li>15 まとめ（長津）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	日々のニュース等で保育に関するトピックを読み、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
授業の留意点	これまでの講義等で学んだ保育政策・制度全般について、基礎的事項を復習しておくこと。毎回のテーマを確認し、それに関連した近年の動向（新聞記事等）を調べておくこと。授業は対面、状況によってはオンライン双方向で実施します。					
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終レポート：50点</li> <li>・毎回のリアクションペーパー：30点</li> <li>・グループワークへの取り組み：20点</li> </ul>					
教科書（購入必須）	講義時に資料等を用意する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育経営論		担当教員名	長津 詩織		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>(1) 現在の保育施設に求められる役割や、関連する制度など、保育施設をめぐる構造的な背景を理解する。</p> <p>(2) 多様な生き方や価値観（世代・ジェンダー・障がいなど）に対する理解を深め、多様な個性をもつ保育者と子ども・保護者にとってよりよい施設運営をするために、必要な知識を獲得する。</p>					
授業の概要	<p>保育の質は、保育者個々の責任に帰するものではなく、経営のあり方にも大きく左右される。この授業では、保育環境を保証する安定した経営、保育ニーズの分析、各園の保育の根幹となる保育方針・計画の策定、コンプライアンス、多様な個性を持つ保育者の活用、専門性の向上を保証する研修等、保育所や幼稚園の経営に必要な事項を扱う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育事業の特徴</li> <li>3 保育事業に関わる組織・団体</li> <li>4 保育施設の管理運営①事業計画、地域ニーズと経営</li> <li>5 保育施設の管理運営②保育方針・計画</li> <li>6 保育施設の管理運営③人事労務管理・採用と人材育成</li> <li>7 保育施設の管理運営④人事労務管理・就業管理と労働時間</li> <li>8 保育施設の管理運営⑤人事労務管理・賃金制度と賃金管理</li> <li>9 保育施設の管理運営⑥リスクマネジメント</li> <li>10 保育施設の管理運営⑦リーダーシップ</li> <li>11 保育施設の管理運営の実際①幼稚園、保育所、認定こども園</li> <li>12 保育施設の管理運営の実際②地域型保育</li> <li>13 保育施設の管理運営の実際③夜間保育</li> <li>14 諸外国の保育施設の管理運営</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義で学んだ保育制度について復習し、近年の情勢を調べておく。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
授業の留意点	<p>これまでの講義で学んだ保育施設の種類や保育制度について復習しておくこと。</p> <p>毎回の授業予定を確認し、それに関連する近年の情勢（新聞記事等）を調べておくこと。</p>					
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー：20%</li> <li>・講義内での提出物：80%</li> </ul>					
教科書（購入必須）	講義時に資料等を用意する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	社会保育論演習		担当教員名	長津 詩織 他学科教員		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等で臨床経験を持つ教員が、保育や子どもを幅広い視野で捉え、社会と保育との関わりを理解する視点を教授する科目					
学習到達目標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等、「社会保育」の現状と課題を実践レベルで明らかにすることができる。					
授業の概要	「社会保育論」での学修を踏まえ、実践レベルで「社会保育」の実現に向けた取り組みを考える。社会と保育との関わりを体験的に学ぶフィールドワークを通して、社会で子どもが育つ／育てることの意味や、その現代的な課題について考える。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 演習計画作成①内容検討</li> <li>3 演習計画作成②グループワーク</li> <li>4 フィールドワーク企画</li> <li>5 フィールドワーク準備</li> <li>6 フィールドワーク実施（前半）①</li> <li>7 フィールドワーク実施（前半）②</li> <li>8 フィールドワーク実施（前半）③</li> <li>9 フィールドワーク中間報告・後半へ向けて</li> <li>10 フィールドワーク実施（後半）①</li> <li>11 フィールドワーク実施（後半）②</li> <li>12 フィールドワーク実施（後半）③</li> <li>13 フィールドワーク振り返り</li> <li>14 報告会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返っておく。			90分	
	復習	授業内で調べたことやフィールドワークの内容を振り返り、その内容と自分なりの考えをまとめておく。			90分	
授業の留意点	フィールドワークは教員の提案を元にして、学生の意見も取り入れながら実施する。保育をより広い視点で捉えるにあたって知りたいことを考えておくこと。 実施方法：対面、場合によっては遠隔。					
学生に対する評価	提出物 40点、フィールドワークへの取り組み 60点					
教科書（購入必須）	特になし					
参考書（購入任意）	適宜提示する					



科 目 名	保健医療福祉連携論		担当教員名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な実践例について多く触れることで、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。このため、様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つことが出来るようになる。</p>					
授業の概要	<p>様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性について考察する。</p> <p>地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携実践の例を複数紹介し、IPWを実践する際の自らの役割や連携協働のあり方について考える。最後にグループワークを実施し、連携教育の総括として、連携実践のイメージを高め、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つように講義展開を行う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 本学連携教育のあゆみ</li> <li>3 保健医療福祉連携活動の実践例①</li> <li>4 保健医療福祉連携活動の実践例②</li> <li>5 保健医療福祉連携活動の実践例③</li> <li>6 保健医療福祉連携活動の実践例④</li> <li>7 全体カンファレンス①</li> <li>8 全体カンファレンス②</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			45 分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			45 分	
授業の留意点	<p>配信日の間隔が一定では無いため、視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク（対面講義）においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>					
学生に対する評価	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)						

科目名	保育原理		担当教員名	及川 智博・高島 裕美		
学年配当	1年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修		資格要件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針等を読解し、そのなかで示されている保育の基本について理解し、説明することができる。</li> <li>・保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度について理解し、説明することができる。</li> <li>・保育の思想とその歴史の変遷について理解し、説明することができる。</li> <li>・乳幼児の発達理解に関する理論とその歴史の変遷について理解し、説明することができる。</li> <li>・現在の保育と子ども、子育てにおける課題について考察し、その解決方法について説明することができる。</li> </ul> <p>なお、「授業計画」の各項目間にある理論的な整合性に気付き、保育という営みを構造的に理解してほしいと考える。</p>					
授業の概要	<p>現行の保育制度と法規を十分に理解したうえで、保育の意義・目的、保育思想、保育内容や方法についての基本的な知識を身に付ける。さらに、具体的な事例を用いて、現在の保育と子ども、さらに子育てにおける課題を把握し、その解決方法を主体的に考察する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：「保育」とは何か</li> <li>2 保育者・保育施設に求められる役割と倫理①：子どもの最善の利益と保育</li> <li>3 保育者・保育施設に求められる役割と倫理②：子ども家庭福祉と保育</li> <li>4 現行の保育制度の基本的理解①：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について</li> <li>5 現行の保育制度の基本的理解②：「子ども・子育て支援新制度」について</li> <li>6 保育に関する法制度の歴史の変遷①：戦後～1980年代</li> <li>7 保育に関する法制度の歴史の変遷②：1990年代～現在</li> <li>8 保育思想の歴史①：保育観・子ども観の成り立ち</li> <li>9 保育思想の歴史②：社会の変化と保育思想の転換</li> <li>10 乳幼児の発達理解をめぐる歴史①：学習説としての「行動主義心理学」</li> <li>11 乳幼児の発達理解をめぐる歴史②：生得説としての「児童心理学」</li> <li>12 乳幼児の発達理解をめぐる歴史③：遺伝と環境の相互作用をとらえる「発達心理学」へ</li> <li>13 現代の保育の課題とは何か①：保育施設と家庭・地域・学校・行政との連携・協働</li> <li>14 現代の保育の課題とは何か②：子育て不安・ストレスと地域子育て支援事業の展開</li> <li>15 保育における課題を解決するためには：グループワークによる意見交換</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用してあらかじめ調べ、情報収集しておくこと。			90分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。			90分	
授業の留意点	<p>本講義は、学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って、重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は、「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。</p>					
学生に対する評価	筆記試験（90%）、授業への参加状況（提出課題の内容により判断する）（10%）					
教科書（購入必須）	<p>厚生労働省、2018『平成30年3月 保育所保育指針解説』フレーベル館          文部科学省、2018『平成30年3月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館          内閣府ほか、2018『平成30年3月 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	教育原理		担当教員名	高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の教育を、歴史的・思想的・制度的な視点から理解し、説明することができる。</li> <li>学校教育の制度ならびに内容・方法について理解し、説明することができる。</li> <li>教育における現代的課題を理解し、これからの教育を考える視角を得る。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り立ちや歴史の変遷、教育実践の内容・方法について学ぶ。また、現代の子ども・家庭や地域・学校教育が抱える問題について具体的な事例をもとに理解し、その解決に当たる教員に求められる資質・力量、役割についても考察する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションー「教育」について学ぶ前にー</li> <li>家庭における子育てと教育</li> <li>子どもをどのように捉えるかー子ども観の歴史ー</li> <li>教育の思想と歴史① 教育方法の歴史</li> <li>教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史</li> <li>幼児教育の思想と歴史</li> <li>学校の歴史と仕組み</li> <li>教育課程・カリキュラムの変遷</li> <li>子ども中心主義の思想と学校</li> <li>授業と学習指導</li> <li>教育の評価</li> <li>学力とは何か</li> <li>教師の成長</li> <li>教育の現代的課題と学校</li> <li>まとめー学校・教育の諸問題を解決するためにー</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用してあらかじめ調べ情報収集をしておくこと。			90分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。			90分	
授 業 の 留 意 点	基本的には講義形式で進めるが、映像資料等を用い特定のテーマについて議論するなど、学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。					
学 生 に 対 す る 評 価	期末レポート（80%）、提出課題（20%）により評価する。					
教 科 書 (購入必須)	特に指定しない。					
参 考 書 (購入任意)	授業のなかで、適宜紹介する。					

科 目 名	教職概論（幼稚園）		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身に付けている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員および保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解し、説明することができる。</li> <li>・現代の教員および保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員および保育者の専門性について自分なりの考えを持つ。</li> <li>・学校および保育施設の役割の多様性を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について自分なりの考えを持つ。</li> </ul>					
授業の概要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義</li> <li>3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設</li> <li>4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続</li> <li>5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法</li> <li>6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから</li> <li>7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1）</li> <li>8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2）</li> <li>9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務</li> <li>10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者</li> <li>11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」</li> <li>12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化</li> <li>13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題</li> <li>14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク</li> <li>15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用して、あらかじめ調べ情報収集しておくこと。			90分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、資料やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。			90分	
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。					
学生に対する評価	中間レポート（50点）、期末レポート課題（50点）により評価する。					
教科書（購入必須）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。					
参考書（購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。					

科 目 名	子ども家庭福祉 I		担当教員名	長津 詩織・鈴木 勲		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、子ども家庭福祉に関する基本的な知識、現状や動向、実際の具体的な支援方法について教授する科目					
学習到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
授業の概要	「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。					
授業の計画	1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5 母子保健と子どもの健全育成 6 多様な保育ニーズへの対応 7 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 9 障害のある子どもへの対応 10 少年非行等への対応 11 少子化と地域子育て支援 12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 子ども家庭福祉の施設と専門性 15 地域における連携・協働とネットワーク					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	子どもと家庭に関する日頃のニュース等に関心をもち、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
	復習	講義の内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
授業の留意点	前半は基本的な理念や理論を踏まえることを重点に取り上げるため、教科書を用いて授業を進める。後半は子ども虐待等様々な問題を抱える家族を考え、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。対面、場合によっては遠隔。					
学生に対する評価	最終レポート 70点、講義内での提出物等 30点					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房					

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ		担当教員名	小山 貴博		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	北海道道北地区を中心にご活躍されたソーシャルワーカーや、実務経験のある教員を招聘して、講義を行う。多様で特別な支援を必要とする子どもと家庭を理解し、地域社会に根差す視点を養うための科目					
学習到達目標	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解して、関わり方および課題を学ぶ。子どもの最善の利益の保障がどのように地域で取り組まれているかの実践を紹介し、子ども家庭福祉の視野を広げる。					
授業の概要	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭の課題を理解し、介入や支援を行うことができる。子どもの最善の利益を地域で保障する実践について理解し、子ども家庭福祉の観点から対応することができる。					
授業の計画	<p>1 はじめに：子ども家庭福祉実践と援助技術</p> <p>2 子育てとは何か：心理学における個人的ドキュメントとしての育児日記の利用法</p> <p>3 地域で取り組む社会的養護(1)：児童養護施設（美深育成園長 兼 美深子ども家庭支援センター長 長野正稔）</p> <p>4 地域での実践から学ぶ(1)：子ども理解の実際—児童用心理検査法（Baumtest、PF スタディ）—（美深育成園長 兼 美深子ども家庭支援センター長 長野正稔）</p> <p>5 地域で取り組む社会的養護(2)：乳児院（札幌乳児院 兼 札幌乳児院児童家庭支援センター長 吉見香）</p> <p>6 地域での実践から学ぶ(2)：乳幼児家庭支援の実際（札幌乳児院 兼 札幌乳児院児童家庭支援センター長 吉見香）</p> <p>7 地域で取り組む社会的養護(3)：児童家庭支援センター（美深子ども家庭支援センター相談員 高橋知見）</p> <p>8 地域での実践から学ぶ(3)：子ども家庭支援の実際（美深子ども家庭支援センター相談員 高橋知見）</p> <p>9 地域で取り組む社会的養護(4)：児童自立支援施設（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩）</p> <p>10 地域での実践から学ぶ(4)：児童自立支援の実際（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩）</p> <p>11 地域で取り組む社会的養護(5)：児童相談所（一時保護所）・里親（北海道旭川児童相談所長 渡辺典子）</p> <p>12 地域で取り組む児童虐待(1)：児童虐待相談の実際（北海道旭川児童相談所長 渡辺典子）</p> <p>13 地域で取り組む児童虐待(2)：児童虐待事例の検討</p> <p>14 家族とは何か：子ども家庭における「家族療法」</p> <p>15 まとめ：子ども家庭福祉にかかわるコンテンツの視聴</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	施設実習を行う点を考慮して、将来、実習に参加する予定の施設の種別について調べる。				90分
	復習	講義をまとめる。				90分
授業の留意点	積極的に授業や演習に参加し、対話的に深く学ぶことを期待する。					
学生に対する評価	期末課題レポートにより評価する。					
教科書（購入必須）	講義時に資料を配布する。					
参考書（購入任意）	<p>陳省仁・古塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院</p> <p>坂本健編著 糸田尚史ほか著 『子どもの社会的養護』 大学図書出版</p> <p>小山充道編著 糸田尚史ほか著 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版</p> <p>中坪・山下・松井・伊藤・立花編集 『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』 ミネルヴァ書房</p>					

科 目 名	子ども家庭支援論		担当教員名	傳馬 淳一郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について講義し、家庭支援における保育者の役割について学ぶ科目					
学習到達目標	子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
授業の概要	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様々な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携・協力のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援を行っていくために必要な基本的態度について、実際の保育場面等をイメージしながら学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども家庭支援の意義と必要性</li> <li>2 子ども家庭支援の目的と機能</li> <li>3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</li> <li>4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</li> <li>5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義</li> <li>6 子どもの育ちの喜びの共有</li> <li>7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援</li> <li>8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）</li> <li>9 家庭の状況に応じた支援</li> <li>10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力</li> <li>11 子ども家庭支援の内容と対象</li> <li>12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援</li> <li>13 地域の子育て家庭への支援</li> <li>14 要保護児童等及びその家庭に対する支援</li> <li>15 子育て支援に関する課題と展望</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書等の関連する箇所を事前に目を通しておく。			90分	
	復習	授業で取り上げられた内容に関して、実際の子育て支援等に結びつけて振り返る。			90分	
授業の留意点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。					
学生に対する評価	期末レポート（70点）、リアクションペーパー（30点）により評価する。					
教科書（購入必須）	井村圭壮・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文舎、2015					
参考書（購入任意）	松原康雄・村田典子・南野奈津子編集 基本保育シリーズ第5巻『子ども家庭支援論』中央法規（2018年度中に出版予定） 西村重稀・青井夕貴編集 基本保育シリーズ第19巻『子育て支援』中央法規（2018年度中に出版予定）					

科 目 名	社会的養護 I		担当教員名	鈴木 勲		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、社会的養護に関する基本的な知識、現状や動向、実際の具体的な支援方法について教授する科目					
学 習 到 達 目 標	1. 児童福祉施設における保育士の仕事と役割について学ぶ。 2. 社会的養護の原理や理念、仕組みについて理解する。 3. 社会的養護領域の事例を活用し、社会的養護を必要とする子どもについての理解を深める。					
授 業 の 概 要	社会的養護の基礎原理及び社会的養護下にある子どもの現状、児童福祉施設の役割を学び、養護を必要とする子どもの自立支援のための基礎知識を身に付けていくことを目的とする。また、社会的養護の基礎理念、社会的養護の法制度、子どもの権利擁護などの観点から授業を進めていく。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護 3 社会的「養護」と子どもの権利「擁護」とは 4 要保護児童や要保護児童とは何か 5 児童福祉施設の機能と役割について 6 家庭と同様の養育環境の保障について 7 社会的養護の変遷について 8 社会的養護の理念と概念 9 社会的養護の基本原則 10 社会的養護の理論について 11 社会的養護のしくみと実施体制 12 社会的養護の専門職に求められる専門性と役割 13 被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護の課題と地域福祉 15 全体のまとめと振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返る。			90分	
	復習	講義での学びを整理し、その内容と自分なりの考えを深める。			90分	
授 業 の 留 意 点	授業展開については、授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。					
学 生 に 対 す る 価 値	学期末試験 100点 定期試験では全体的な基礎知識を問う。社会的養護に関する今日的な課題について、問題意識を持って受講するようにして下さい。					
教 科 書 (購入必須)	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護 I 第2版」教育情報出版 (ISBN 9784909378224)					
参 考 書 (購入任意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。					



科 目 名	保育者論		担当教員名	傳馬 淳一郎・長津 詩織		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について講義し、保育における保育者の役割について学ぶ科目					
学 習 到 達 目 標	(1) 保育者の役割と倫理について理解する (2) 保育士の制度的な位置づけを理解する (3) 保育士の専門性について考察し、理解する (4) 保育者の協働について理解する (5) 保育者の専門職的成長について理解する					
授 業 の 概 要	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的な位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。					
授 業 の 計 画	1 保育者の役割と倫理 (担当 傳馬) 2 保育士の制度的な位置づけ (担当 傳馬) 3 保育士の専門性 養護と教育 (担当 傳馬) 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力 (担当 傳馬) 5 保育と保護者支援にかかわる協働 (担当 傳馬) 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携 (担当 傳馬) 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携 (担当 傳馬) 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携 (担当 傳馬) 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断 (担当 長津) 10 保育士の専門性 保育の省察 (担当 長津) 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達 (担当 長津) 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成 (担当 長津) 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ (担当 長津) 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件 (担当 長津) 15 まとめ より良い保育者を目指して (担当 傳馬)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	自ら受けた保育の記憶や実習で出会った保育者を思い出しながら「保育者とは」との視点で予習を行う。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、ノートなどにまとめる。			90分	
授 業 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。					
学生に対する評価	期末レポート 70点、リアクションペーパー 30点。					
教 科 書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院					

科 目 名	幼児教育史		担当教員名	稲井 智義		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	北海道幼児教育推進センター研修講師、北海道史編さん調査研究委員、北海道教育大学附属旭川幼稚園研究協力者の実務経験をふまえ、道内の幼児教育と子ども福祉の動向について紹介します。					
学習到達目標	この授業の目標は、受講者が幼児教育の歴史を理解して、自分で探究を進め、歴史をつくるための技法を身につけることです。今年、幼児教育学の基本文献を読むことを目標にします。 (1) 幼児教育史の研究動向を知り、そこからさらに自分で探究をはじめましょう。 (2) 自分の言葉で、わからないことを勇気を持って表現しましょう。 (3) 子どもと教育、社会を完全にわかったつもりにならない姿勢を身につけましょう。 (4) 日常にある不思議さや複雑さを子どもや他者とともに見つけられるようになりましょう。					
授業の概要	前半では、社会や政治との関わりから幼児教育の歴史を講義する。第二次世界大戦後イタリアのレッジョ・エミリアの幼児教育を、市民性教育やファンタジー、『「保育の質」を超えて』の視点から取り上げる。受講者が幼児教育を研究するための文献と調査方法を紹介する。 後半では、以上の内容を活用して、『幼児教育へのいざない』を読み解く。受講者は指定箇所についてグループで調べて、わからないことを報告したうえで、質疑応答と対話をしていく。 歴史と研究をふまえながら、これからの幼児教育と社会のあり方を協同作業で深く考えたい。					
授業の計画	1 ガイダンス、幼児教育における探究と「公共心」 2 社会保育？の歴史：「近代日本の子ども観と母性、社会改革」と岡山孤児院 3 「すべての子どもの学習権を保障する、みんなの学校」とフル・インクルーシブ 4 市民としての子どものつくる公教育：アート、ファンタジー、聴き入ることの教育 5 近代の教育思想：「子どもの発見」（ルソー）と「子ども観の変化の発見」（アリエス） 6 1988年子ども文学『となりのトトロ』『にゃーご』と1989年幼稚園教育要領の断絶 7 施設保育がもたらす余暇とアナーキズム：こどもの里、ブレイディみかこ、ケア 8 「あとがき」第1章 1子どもを具体的にみる 2「けんちゃんの絵日記」からの脱出 9 「3「子どもを見る」行為 4「子どもに寄り添う」 5子どもを「集団の一員」として見る」 10 「第2章 子どもが「発達する」ということ」 11 「第3章 保育思想の源泉をさぐる」 12 「第4章「ともに生きる」保育」 13 「第5章「アートの思考」の教育」「増補改訂版の刊行にあたって」 14 レッジョ・インスピレーションとリアル・ユートピア：小玉論文『発達』162号、2020年 15 まとめ、「勉強は自己破壊である」（千葉『勉強の哲学』）、みなさんは何が変わりましたか。					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を読み、要点とわからない箇所、自分で調べたことをノートにまとめる。			90分	
	復習	講義の要点を整理し、わからない箇所を参考書で調べ、ノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	去年の受講者によると「私は最初稲井先生が苦手でした」。この授業に関心がある方は4月に出席して、受講するかしないか判断してください。恥も外聞も捨てて、全力で深く勉強しませんか。					
学生に対する評価	授業内に提出する小レポートと質疑応答・対話（84点）、グループレポート報告（16点）。遠隔授業（zoom・リアルタイム、6月2週間実習はオンデマンド）で実施します。					
教科書（購入必須）	佐伯胖『幼児教育へのいざない：円熟した保育者になるために』増補改訂版、東京大学出版会、2014年。5月に分担を決めて各自で事前に読み、第8回目以降の授業内で検討します。					
参考書（購入任意）	小玉亮子編『幼児教育』ミネルヴァ書房、2020年。（2022年度の教科書） 千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書、2022年。（勤務校「領域・環境」教科書） キャロル・ギリガン『もうひとつの声で：心理学の理論とケアの倫理』風行社、2022年。 結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか：集団教育のエスノグラフィ』有信堂高文社、1998年。 ブレイディみかこ『ジンセイハ、オンガクデアル』ちくま文庫、2022年。 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編『保育学用語辞典』2019年。 名寄の先生が推薦した本、北教大川端美穂先生、お茶大小玉亮子先生のシラバス記載文献など。					

科 目 名	教育法概論		担当教員名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。					
授 業 の 概 要	<p>教育法とは、憲法・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法・教育基本法体制のもとで新たに出発し、国の教育政策に対する抵抗運動を通じて発展を遂げた。その中で、教科書裁判など多くの重大な事件・争点が生み出されてきた。この授業では教育法の主要事項と、その代表的な論点について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務に臨む良識を身につけてもらう。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 教育法とは何か</li> <li>3 教育法の歴史：明治憲法・教育勅語体制、日本国憲法・教育基本法体制、戦後教育法学の展開</li> <li>4 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育、私学助成</li> <li>5 教育基本法：1946年教育基本法、2006年改正法</li> <li>6 学校教育法：学校制度</li> <li>7 地教法：教育委員会、教育の地方分権化</li> <li>8 学校安全</li> <li>9 国際教育法と日本</li> <li>10 教育権論争</li> <li>11 教科書検定制度</li> <li>12 日の丸・君が代訴訟</li> <li>13 公立学校と政教分離</li> <li>14 校則と懲戒処分 of 事例①</li> <li>15 校則と懲戒処分 of 事例②</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定教科書・参考書を読む。			90分	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所等のWebサイトに目を通す。			90分	
授 業 の 留 意 点	<p>私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は併せて履修することを強く望む。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p> <p>予習・復習としては、教科書・参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。法令や関連文書を読むことにも慣れてもらいたい。</p>					
学生に対する評価	期末試験(100%)					
教 科 書 (購入必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015)</li> <li>そのほか追加資料を配布する。</li> </ul>					
参 考 書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』(日本評論社、2015)</li> <li>・『季刊教育法』(エイデル研究所)</li> <li>そのほか参考文献を適宜紹介する。</li> </ul>					

科 目 名	生涯学習論		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。					
授業の概要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する（＝エンパワーメント）学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」（ユネスコ「学習権宣言」）である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習とは何か ー保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて</li> <li>2 成人にとっての「学び」 ー自主夜間中学を例に</li> <li>3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展</li> <li>4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割</li> <li>5 生涯学習・社会教育の法と行政 ー学びの自主性をめぐって</li> <li>6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員（1）公民館</li> <li>7 生涯学習・社会教育を支える施設と職員（2）図書館・博物館</li> <li>8 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり</li> <li>9 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育</li> <li>10 子育て仲間づくりにみる学習の組織化</li> <li>11 誰が学習要求を組織するのか</li> <li>12 学習過程とその支援 ー健康学習を例に</li> <li>13 学習の構造化 ー青年・若者をめぐる社会教育実践①</li> <li>14 自分さがしと居場所づくり ー青年・若者をめぐる社会教育実践②</li> <li>15 若者自立支援と社会教育 ー青年・若者をめぐる社会教育実践③</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布された資料ないし指示された文献等を読む。			90 分	
	復習	内容をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			90 分	
授業の留意点	感染状況等によっては遠隔授業とする。教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。					
学生に対する評価	期末レポート（70点）、提出課題または小テスト（計30点）で評価を行う。					
教科書（購入必須）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。					
参考書（購入任意）	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年					

科 目 名	発達心理学		担当教員名	及川 智博・奥村 香澄		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 発達心理学の基礎理論について理解する。 2. 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する。					
授 業 の 概 要	発達心理学の基礎理論について、特に保育実践との関連に触れながら講義を行う。講義を進めるにあたっては、科学が仮説の上に成り立っており、異なる理論上の立場や学説があることを理解すること、また知識として学ぶばかりでなく、学び方を学ぶことが重要であることに留意する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション／保育と心理学（1） 子どもの発達を理解することの意義</li> <li>2 保育と心理学（2） 保育実践の評価と心理学</li> <li>3 保育と心理学（3） 発達観、子ども観と保育観</li> <li>4 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（1） 感情とは何か／基本的感情とその理解</li> <li>5 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（2） 客観的自己意識の発達と自己意識的評価感情の発達／情操の発達</li> <li>6 子どもの発達理解～運動機能の発達～</li> <li>7 子どもの発達理解～認知の発達～（1） 赤ちゃんのこころの発達</li> <li>8 子どもの発達理解～認知の発達～（2） 思考の発達／心の理論</li> <li>9 子どもの発達理解～言語の発達～</li> <li>10 人との相互的かかわりと子どもの発達（1） 愛着の形成と発達</li> <li>11 人との相互的かかわりと子どもの発達（2） 発達と学習</li> <li>12 生涯発達と発達援助</li> <li>13 障がい児の発達</li> <li>14 保育実践事例の分析</li> <li>15 まとめ 子ども、社会、環境、発達、自立</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業前に次回講義に関わる教科書の該当範囲に目を通したり、関連するキーワードについて調べておくこと。			90分	
	復習	授業内で学んだ内容や追加資料、また教科書の該当範囲を再度読むなどして理解を定着させること。			90分	
授 業 の 留 意 点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。					
学 生 に 対 す る 評 価	授業内レポート（10点）及び期末試験（90点）により評価する。					
教 科 書 （購入必須）	心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』有斐閣					
参 考 書 （購入任意）	授業内で資料を適宜配付する。					

科 目 名	子ども教育心理学		担当教員名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習にかかわる基礎的な心理学理論を理解する。 (2) 発達の特徴を踏まえた学習を支える指導の基礎的な考え方を修得する。					
授 業 の 概 要	はじめに、子どもの心身の発達及び学習に関する基礎理論を学ぶ。次に、子どもの心身の発達及び学習にかかわる各論（記憶、知識、概念、動機づけ、問題解決、主体的学習、リテラシーなど）を学ぶ。以上の内容を通して、教育実践を心理学的に理解し、自ら検討できるようになることを目指す。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 発達および学習の基礎理論① 発達の理論 3 発達および学習の基礎理論② 学習の理論 4 発達および学習の基礎理論③ 発達と学習の関係 5 学習における記憶の役割① 記憶のしくみ 6 学習における記憶の役割② 外的記憶補助、媒介記憶 7 知識・概念の学習と発達① 概念の構造 8 知識・概念の学習と発達② 科学的概念と生活的概念 9 学習への動機づけ① 内発的動機づけ、自己決定理論 10 学習への動機づけ② 達成目標理論 11 問題解決による学習① 問題解決、転移 12 問題解決による学習② 集団における協働学習 13 学習および発達の支援の問題① 主体的学習の支援と評価 14 学習および発達の支援の問題② 外国にルーツをもつ子どもへの学習支援 15 学習および発達の支援の問題③ 幼児期のリテラシーの学習支援					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			30分	
	復習	授業内容を振り返る。			15分	
授 業 の 留 意 点	積極的に参加してほしい。					
学 生 に 対 す る 評 価	授業への参加を20点、課題提出を20点、期末試験を60点として評価する。					
教 科 書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	『学習・言語心理学』（郷式 徹・西垣順子編、ミネルヴァ書房） 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』（石黒広昭著、東京大学出版会）					

科 目 名	子どもの保健		担当教員名	看護学科教員・塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	医学的知識のある医師の資格を有する教員と小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの成長発達、健康状態の把握の仕方について講義を通して指導する					
学習到達目標	<p>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。</p> <p>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。</p> <p>3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。</p> <p>4. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解することができる。</p> <p>5. 子どものこころとからだ、「虐待」から現代的問題を理解することができる。</p>					
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と現在の健康問題について、ディスカッションを通して理解・考察していく。子どもの身体発育や生理・運動機能については、成長発達の変化から捉えられるように、また子どもの健康問題とその対応、疾病については、子どもに特異的なものを中心として写真・イラストなどを用いて解説する。					
授業の計画	<p>1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的、健康の概念と健康指標</p> <p>2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域の保健活動と子ども虐待の防止</p> <p>3 子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育及び運動機能の発達と保健</p> <p>4 子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達と保健</p> <p>5 子どもの身体的発育・発達と保健（3）生理機能の発達と保健</p> <p>6 子どもの身体的発育・発達と保健（4）生理機能の発達と保健</p> <p>7 子どもの心身の健康状態とその把握（1）</p> <p>8 子どもの心身の健康状態とその把握（2）</p> <p>9 子どもの心身の健康状態とその把握（3）</p> <p>10 子どもの疾病とその対応（1）</p> <p>11 子どもの疾病とその対応（2）</p> <p>12 子どもの疾病とその対応（3）</p> <p>13 子どもの疾病の予防（4）</p> <p>14 子どもの疾病の予防（5）</p> <p>15 子どものこころとからだ 虐待と脳への影響</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業について毎回提示する。関連する教科書の章・文献を読み込んでくる			90分	
	復習	本時の目標に沿って、資料などを振り返りまとめる			90分	
授業の留意点	子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むための指針を示すものである。積極的な授業参加を期待したい。					
学生に対する評価	定期試験 100点					
教科書（購入必須）	子どもの保健 遠藤郁夫/三宅捷太 編集 学建書院					
参考書（購入任意）						

科 目 名	子どもの食と栄養	担当教員名	高野 良子
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	必修
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。</li> <li>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。</li> <li>3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する。</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>		
授 業 の 概 要	教科書や関連するガイドライン、教員作成の資料等を用いて基本的知識を学んだ後、演習に取り組むことで理解を深めていく。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康と食生活の意義 (1) 子どもの心身の健康と食生活 (講義)</li> <li>2 子どもの健康と食生活の意義 (2) 子どもの食生活の現状と課題 (講義・演習)</li> <li>3 栄養に関する基礎知識 (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 (講義・演習)</li> <li>4 栄養に関する基礎知識 (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本 (講義・演習)</li> <li>5 子どもの発育・発達と食生活 (1) 乳児期の食生活① 乳児期の食機能の発達と成長 (講義・演習)</li> <li>6 子どもの発育・発達と食生活 (2) 乳児期の食生活② 乳汁栄養、離乳の意義と食生活 (講義・演習)</li> <li>7 子どもの発育・発達と食生活 (3) 幼児期の食生活① 幼児期の食機能の発達と成長 (講義・演習)</li> <li>8 子どもの発育・発達と食生活 (4) 幼児期の食生活② 幼児期の栄養・食生活の実態と保育者としての対応 (講義・演習)</li> <li>9 子どもの発育・発達と食生活 (5) 学童・思春期の食生活、生涯発達と食生活 (講義)</li> <li>10 食育の基本と内容 (1) 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方、食育の内容、計画及び評価、食育のための環境づくり、地域の関係機関や職員間の連携 (講義)</li> <li>11 食育の基本と内容 (2) 児童福祉施設や家庭、地域での食育の実践 (演習)</li> <li>12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (講義・演習)</li> <li>13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1) 疾病および体調不良の子ども、障がいのある子ども、食物アレルギーのある子どもへの対応 (講義)</li> <li>14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応の実際 (演習)</li> <li>15 世界の子どもの食生活、科目のまとめ (講義)</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	教科書の該当箇所を事前に予習してくる。		
学生に対する評価	定期試験 (50点)、小テスト (15点)、課題・提出物 (35点) により総合的に評価する。		
教科書 (購入必須)	上田玲子編著『子どもの食生活 ー栄養・食育・保育ー 第3版』ななみ書房 (2018)		
参考書 (購入任意)			



科 目 名	子ども家庭支援の社会・心理学		担当教員名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援 NPO などにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な理解を促し、支援の方法などについて指導する科目					
学習到達目標	<p>(1) 生涯に互る発達に関する心理学的な知見、各期における発達課題、乳・幼児期の重要性等について理解し、保育することができる。</p> <p>(2) 家庭・家族の意義や構造・機能、親子関係や家族関係等を発達論的・システム論的に理解し、子どもと家庭を社会的・文化的・歴史的に捉え、支援することができる。</p> <p>(3) 現代の家庭生活に関わる問題の現状を知り、それらの問題と経済的・社会的背景とを関連づけて理解することができる。</p> <p>(4) 子どものメンタル・ヘルスと精神保健福祉的な課題について理解・考察することができる。</p>					
授業の概要	乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期などの各段階における子どもと養育者の発達課題や精神保健（心の健康）について学修する。また、家族の中で生まれ育ち、就労し、子どもを生み育てるといふ生活の営みが「今日なぜ大変と感じられるのか」についても幅広い視点から考える。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：履修上の注意事項、成績評価の方法、イントロダクション</li> <li>2 生涯発達①：乳児期における社会・心理学的発達</li> <li>3 生涯発達②：幼児期における社会・心理学的発達</li> <li>4 生涯発達③：学童期における社会・心理学的発達</li> <li>5 生涯発達④：思春期・青年期における社会・心理学的発達</li> <li>6 生涯発達⑤：成人期・老年期における社会・心理学的発達</li> <li>7 家族の社会・文化・歴史的理解①：ホームやファミリーの意義及び構造・機能</li> <li>8 家族の社会・文化・歴史的理解②：親子関係・家族関係</li> <li>9 家族の社会・文化・歴史的理解③：子育ての経験と親としての育ち</li> <li>10 子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>11 ライフコースと仕事・子育て</li> <li>12 多様な家族とその理解</li> <li>13 特別な配慮が必要な子ども家庭の理解と援助</li> <li>14 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題①：子どもの生活・育成環境とその影響</li> <li>15 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題②：子どもの心の健康にかかわる諸問題と家族療法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。			90分	
	復習	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献を読む。			90分	
授業の留意点	現代社会における人間の生涯にわたる心理学的発達とそれにかかわる家族（家庭）の機能との力動的な関係について学ぶ。また、現代の日本で家庭生活を営む中で直面する問題について、経済や産業のあり方との関係を踏まえ、社会保育学的視点から検討する。予習は教科書をもとに行い、復習は配布資料によって為されることが期待される。					
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 期末試験 70点</li> <li>(2) 講義時におけるリアクションペーパー 30点</li> </ol>					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育指導論		担当教員名	棚橋 裕子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義、目的、内容について理解し論じることができる。</li> <li>・幼児期の発達特性や行動特性に基づき、子ども理解の重要性を論じることができる。</li> <li>・保育記録の意義や内容について理解し、分析的、実践的にまとめることができる。</li> </ul>					
授業の概要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 幼稚園、保育園、認定こども園における保育</li> <li>2 保育3法令と保育内容</li> <li>3 保育施設におけるカリキュラムの意義と目的</li> <li>4 子どもの遊びと保育者の援助① 遊びの意義と必要性</li> <li>5 子どもの遊びと保育者の援助② 遊びのおもしろさの探究</li> <li>6 子どもの遊びと保育者の援助③ 子どもが遊びで得る経験とその意味</li> <li>7 環境を通して行う保育の意義① 子どもの姿に学ぶ</li> <li>8 環境を通して行う保育の意義② 子どもの実態把握から計画へ</li> <li>9 保育記録の意味</li> <li>10 指導計画の意義と必要性</li> <li>11 行事の捉えと意義① 日常から行事へのつながり</li> <li>12 行事の捉えと意義② 行事を通して得る経験とその後の保育</li> <li>13 家庭との連携① 育ち合う親と保育者</li> <li>14 家庭との連携② 子どもを中心とした支援体制づくり</li> <li>15 まとめ 子どもを取りまく社会と今後の課題</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。			90分	
	復習	毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料を参考に学習の補完を行うこと。			90分	
授業の留意点	講義科目であるが、グループワーク等での積極的な参加態度と協同的な学びの姿勢を求める。さらに、自分の興味や疑問点を追求しつつ、他者の視点を取り入れながら形式的に理解を深めていくことを期待する。 授業の進度により内容が前後、変更する場合がある。					
学生に対する評価	授業内レポート 20点、期末試験 70点、授業態度 10点					
教科書（購入必須）	幼稚園教育要領解説『フレーベル館』 その他、適宜資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育内容総論		担当教員名	高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3.子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育および教育内容についての基本理念と構造を学習したうえで、保育および幼児教育施設におけるカリキュラムならびに指導計画編成の意義・目的について理解し、説明することができる。</li> <li>・保育および幼児教育施設の実情や乳幼児の発達に即した環境構成をベースとした、さまざまなパターンの指導計画を立案することができる。</li> </ul>					
授業の概要	保育・幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について理解し、乳幼児の発達と成長を促すためのカリキュラムならびに各種指導計画の編成について、実践的に学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容・カリキュラム</li> <li>2 保育内容・カリキュラムの歴史の変遷</li> <li>3 保育カリキュラムの編成原理と子ども観</li> <li>4 教育課程・保育課程の編成とカリキュラム・マネジメント</li> <li>5 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容の理解</li> <li>6 子どもの発達と保育内容</li> <li>7 子ども理解と評価</li> <li>8 養護と教育の一体性と保育内容</li> <li>9 保育における計画① 指導計画の作成</li> <li>10 保育における計画② 計画の展開と評価</li> <li>11 幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容</li> <li>12 諸外国の保育内容・カリキュラム</li> <li>13 これからの保育内容①多様な保育ニーズとさまざまな保育形態</li> <li>14 これからの保育内容②多文化共生の保育</li> <li>15 まとめ—子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用して、あらかじめ調べ情報収集しておくこと。			45分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。				
授業の留意点	講義形式と演習形式を適宜使い分けながら授業を実施する。特に後半では、ペアまたはグループでの指導計画の作成作業に取り組むので、積極的な態度での参加を期待する。					
学生に対する評価	中間試験（50点）、最終提出課題（50点）により評価する。					
教科書（購入必須）	岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正，2018『教育課程・保育の計画と評価 —書いて学べる指導計画—』萌文書林.					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育内容・言葉		担当教員名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。</li> <li>・乳幼児期の言語発達を理解する。</li> <li>・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	保育内容「言葉」についての幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるねらいと内容を確認するとともに、子どもの言葉の発達についての基本的知識を獲得する。それを基盤に、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」</li> <li>3 子どもの言葉の発達① 乳児期の言語獲得</li> <li>4 子どもの言葉の発達② 幼児期のひとりごと</li> <li>5 子どもの言葉の発達③ 幼児期の言葉から児童期の言葉へ</li> <li>6 子どもの言葉の発達④ 自分の考えや思いを伝える言葉</li> <li>7 言葉と身体① 言葉以前の声</li> <li>8 言葉と身体② 身体と声の関係</li> <li>9 言葉と身体③ 言葉の音を楽しむ</li> <li>10 子どもの言葉を育む保育の実際① 絵本</li> <li>11 子どもの言葉を育む保育の実際② 紙芝居</li> <li>12 子どもの言葉を育む保育の実際③ 言葉遊び・わらべうた</li> <li>13 模擬保育① 指導案作成</li> <li>14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育</li> <li>15 模擬保育③ 模擬保育の振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			90分	
	復習	授業内容を振り返る。			90分	
授業の留意点	積極的に授業に参加して欲しい。					
学生に対する評価	提出課題（40点）および期末レポート（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）	適宜プリント等を配布する。					
参考書（購入任意）	『子どもと言葉』（岡本夏木著、岩波書店） 『ことばと発達』（岡本夏木著、岩波書店）					

科 目 名	保育内容・人間関係		担当教員名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3.子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援NPOなどにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子どもの社会性や人間関係構築の支援方法などについて指導する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。</li> <li>・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・幼児期の人間関係の発達を理解する。</li> <li>・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。</li> </ul>					
授業の概要	子どもが人と親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 領域「人間関係」とは</li> <li>2 領域「人間関係」の「ねらい及び内容について」</li> <li>3 子どもの協同的活動としての遊びとその発達（1）</li> <li>4 子どもの協同的活動としての遊びとその発達（2）</li> <li>5 子どもの協同的活動としての遊びとその発達（3）</li> <li>6 子ども同士の関わりを育む遊びと保育者の役割</li> <li>7 集団生活を通じた人間関係の成長</li> <li>8 乳幼児期の人間関係の発達（1）0～2歳</li> <li>9 乳幼児期の人間関係の発達（2）3～6歳</li> <li>10 人間関係を育てる保育実践（1）0～2歳</li> <li>11 人間関係を育てる保育実践（2）3～6歳</li> <li>12 家庭や地域との関わりや連携から育む人間関係（1）</li> <li>13 家庭や地域との関わりや連携から育む人間関係（2）</li> <li>14 特別な支援を要する子ども</li> <li>15 現代社会の状況と領域「人間関係」をめぐる諸問題</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。			90分	
	復習	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献を読む。			90分	
授業の留意点	予習は教科書に沿って行い、復習は配布資料をもとに行う。グループに分かれての討論や実技には積極的に参加することを期待する。					
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 期末試験 70点</li> <li>(2) 講義時におけるリアクションペーパー30点</li> </ol>					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)						

科 目 名	保育内容・環境 I		担当教員名	菊池 稔		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えた人材を育む。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・乳幼児期の子どもと環境とのかかわりについて学び、保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	<p>子どもは、人や社会、自然など、さまざまな環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容「環境」に関する基礎的な理解をする。また、周囲の環境に対する子どもの好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに積極的に関わっていくための保育方法について学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育内容・環境の全体構造</li> <li>2 領域「環境」のねらいと内容</li> <li>3 子どもを取り巻く環境</li> <li>4 乳幼児期の子どもと環境とのかかわりの特性</li> <li>5 子どもの好奇心と探求心の芽生え</li> <li>6 子どもと環境 (1) 自然環境とのかかわり</li> <li>7 子どもと環境 (2) 生き物とのかかわり</li> <li>8 子どもと環境 (3) 生活の中での文字・数・図形とのかかわり</li> <li>9 子どもと環境 (4) 身近なモノとのかかわり</li> <li>10 子どもと環境 (5) 生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法</li> <li>11 人的環境としての友だちや保護者</li> <li>12 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成</li> <li>13 模擬保育 (1) 保育内容「環境」に関する指導案作成と評価方法</li> <li>14 模擬保育 (2) 指導案に基づく模擬保育と振り返り</li> <li>15 まとめー保育内容「環境」をめぐる保育者の役割と小学校との連携</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布した資料を読み、理解を深める。			90分	
	復習	体験した活動が領域環境のどのようなねらいで行われたのか考え、指導案としてまとめる。			90分	
授業の留意点	<p>授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。</p>					
学生に対する評価	<p>授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点</p>					
教科書 (購入必須)	<p>文部科学省「幼稚園教育要領」解説 厚生労働省「保育所保育指針」解説</p>					
参考書 (購入任意)	<p>必要に応じて適宜指示する。</p>					

科 目 名	保育内容・環境Ⅱ		担当教員名	菊池 稔		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えた人材を育む。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	・「保育内容・環境Ⅰ」の指導法を実践的に学び、保育実践の在り方を考察する。					
授業の概要	「保育内容・環境Ⅰ」で学習したことを踏まえ、指導法について実践的に学ぶ。自然や社会など身近な環境に子どもがいかにかかわっていくか、積極的にかかわっていくにはどんな力が必要なのか、保育者も含めた人的環境の大きさについて考えると共にその指導法を実践的に学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 領域のねらい及び内容の理解、全体構造の理解他</li> <li>2 自然環境（１）身近な自然を観察する</li> <li>3 自然環境（２）自然のなかでの遊び</li> <li>4 植物（１）植物を観察する</li> <li>5 植物（２）植物栽培と保育実践</li> <li>6 動物（１）身近な生き物を探す</li> <li>7 動物（２）動物飼育と保育実践</li> <li>8 子どもの自然体験と保育方法（１）「森のようちえん」のカリキュラムと実践</li> <li>9 子どもの自然体験と保育方法（２）模擬保育①指導案の作成</li> <li>10 子どもの自然体験と保育方法（３）模擬保育②指導案に基づく模擬保育</li> <li>11 幼稚園・保育所における環境整備の在り方、情報機器の利用法</li> <li>12 身近な動植物とのふれあいができる園庭の整備</li> <li>13 子どもと文化的環境（１）北海道の環境と保育実践</li> <li>14 子どもと文化的環境（２）「森の幼稚園」と保育実践</li> <li>15 まとめ 幼稚園教育の評価・小学校の教科等へのつながり</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布する資料を読み、理解を深める			45分	
	復習	体験した活動を例に領域環境の指導案にまとめる				
授業の留意点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。					
学生に対する評価	授業の取り組み方・意欲 20点、制作物 20点、発表 20点、期末レポート 40点					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』					
参考書（購入任意）	必要に応じて適宜指示する。					

科 目 名	保育内容・健康 I		担当教員名	三井 登		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。</li> <li>・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解することができる。</li> <li>・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。</li> </ul>					
授業の概要	領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの発達を支える援助や指導の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について</li> <li>2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が目指すもの</li> <li>3 子どもの心身の発達と発達 形態の発達、生理機能の発達などを学ぶ</li> <li>4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ</li> <li>5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際）</li> <li>6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について</li> <li>7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える</li> <li>8 「健康」の具体的内容と保育指導案 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方</li> <li>9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開1）運動機能の発達、心の発達などを学ぶ</li> <li>10 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開2）遊具・器具を使った運動遊びを学ぶ</li> <li>11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について考える</li> <li>12 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開3）鬼ごっこなどの指導の実際を学ぶ</li> <li>13 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開4）競い合う遊びの指導の実際を学ぶ</li> <li>14 模擬授業3（運動遊び・体育遊びの展開5）外遊びの実際と心身の発達との関係</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で提示した資料を読んで、関連する文献を自分で調べて読んでおくこと。			180分	
	復習					
授業の留意点	参考文献・資料に目を通し、紹介した文献等について授業の事前事後に参照しておくこと。					
学生に対する評価	提出物100点					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館					
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。					



科 目 名	保育内容・健康Ⅱ		担当教員名	三井 登		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	「保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める ・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について説明することができる。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について問題点を把握することができる。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について理解する。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について説明することができる。					
授 業 の 概 要	領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。					
授 業 の 計 画	1 授業のガイダンス 2 子どもの健康 運動・食事・睡眠 3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動 4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割について学ぶ 5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える 6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的な生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ 7 基本的な生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する 8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方 10 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導案の実践 11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ 12 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導案の実践 13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる 14 食育の取り組みから学んだことを実践する 15 まとめと振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で紹介した文献について読んでおくこと。			45分	
	復習					
授業の留意点	テキスト『発達の扉<上>』について、授業で取り上げる範囲を予習しておくこと。					
学生に対する評価	意欲・態度20点、提出物80点					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 白石正久『発達の扉<上>』かもがわ出版、1994年					
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。					

科 目 名	保育内容・表現 I		担当教員名	三国 和子・堀川 真・石本 啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。					
授業の概要	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用情報機器の表現の受容など多方面から指導法について学ぶ。実技やグループワーク、模擬保育等も行う。					
授業の計画	1 オリエンテーション (担当：三国) 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解 (担当：石本) 3 子どもの表現の発達① 音楽 (担当：三国) 4 子どもの表現の発達② 造形 (担当：堀川) 5 素材との出会い① 自然との関わり (担当：石本) 6 素材との出会い② 環境の構成・情報機器の活用 (担当：堀川) 7 美的感動の喚起 ―保育者の役割 (担当：堀川) 8 感動の伝えあいと共有 (担当：石本) 9 表現の方法① 言葉 (担当：石本) 10 表現の方法② 絵 (担当：石本) 11 表現の方法③ 工作 (担当：堀川) 12 表現の方法④ 楽器あそび (担当：三国) 13 模擬保育① 指導案作成 (担当：三国) 14 模擬保育② 実習 (担当：三国、堀川、石本) 15 まとめ (担当：三国、堀川、石本)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	毎回の授業テーマに関する疑問点を整理しておく。			60分	
	復習	授業を振り返り、理解や授業中の課題の取り組みが不足していた点を補足する。			120分	
授業の留意点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。					
学生に対する評価	授業態度 (30点)、課題提出 (30点)、最終レポート (40点) により評価する。					
教科書 (購入必須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館					
参考書 (購入任意)	厚生労働省『保育所保育指針』、その他必要な際に提示する。					

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）		担当教員名	三国 和子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。					
授業の概要	保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性や表現に関する事項について、実技やグループワークを交えながら学ぶ。また、それを踏まえ、表現領域での音楽活動についての支援のあり方について深めていく。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODakShION 保育における音楽の位置づけ</li> <li>2 子どもの音楽表現とその発達① レクチャー</li> <li>3 音楽活動のねらい</li> <li>4 音楽活動の教材研究① レクチャー</li> <li>5 音楽活動の教材研究② メソッドとアプローチ</li> <li>6 音楽活動の教材研究③ 音楽遊びの実践</li> <li>7 音楽活動の教材研究④ 演習</li> <li>8 子どもの音楽表現とその発達②（グループワーク）考察</li> <li>9 子どもの音楽表現とその発達③（全体）報告とまとめ</li> <li>10 音楽活動の指導</li> <li>11 音楽活動の実践① レクチャー</li> <li>12 音楽活動の実践② 指導案作成</li> <li>13 音楽活動の指導③ 模擬保育</li> <li>14 音楽活動の指導④ 模擬保育</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業テーマに関する疑問点を整理しておく。			15分	
	復習	授業を振り返り、理解の不足しているところを確認し補足する。			30分	
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となることがある。					
学生に対する評価	レポート課題（50点）、授業における課題提出（50点）によって評価する。					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館					
参考書（購入任意）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社					

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえて造形表現活動を実践し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につけて子どもとかかわることができる。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、前半の「多様な素材」においては、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した造形活動支援ができるようにする。</li> <li>・多様な子どもに向き合うことを想定し、後半の「絵本づくり」においては、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。</li> </ul>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 風とあそぶ</li> <li>2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン</li> <li>3 多様な素材 (2) 箱：カメラ</li> <li>4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り</li> <li>5 多様な素材 (4) 水：染めあそび</li> <li>6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ</li> <li>7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる</li> <li>8 様々な造形パフォーマンス</li> <li>9 絵本づくり (1) 構想</li> <li>10 絵本づくり (2) 下絵～彩色</li> <li>11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ</li> <li>12 絵本づくり (4) 製本の技法</li> <li>13 絵本づくり (5) 糊付け</li> <li>14 絵本づくり (6) 製本</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもとの共感について理解する授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(70点)、発表(30点)。					
教科書 (購入必須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。					
参考書 (購入任意)	特になし					

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（言語）		担当教員名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における言語に関わる活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。					
授業の概要	まず、子どもの想像力の発達についての知識を学ぶ。それに基づいて、子どもの言語表現を育てる教材や指導法を学ぶ。全体を通じて、言語表現が豊かに育つときの保育者の役割について理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 子どもの想像力の発達① 現実と想像の世界</li> <li>3 子どもの想像力の発達① 絵画表現</li> <li>4 虚構遊びにおける表現① 言葉の役割とは</li> <li>5 虚構遊びにおける表現② 物を使って言葉を導く</li> <li>6 虚構遊びにおける表現③ 身振りと言葉</li> <li>7 表現を育てる資源① 映像</li> <li>8 表現を育てる資源② 資源</li> <li>9 表現を育てる資源③ 詩的表現</li> <li>10 自然観察における表現① 経験の言語化</li> <li>11 自然観察における表現② 科学の言葉と想像</li> <li>12 自然観察における表現③ 虚構遊びと自然探索の言語表現</li> <li>13 模擬保育① 指導案作成</li> <li>14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育</li> <li>15 模擬保育③ 模擬保育の振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			30分	
	復習	授業内容を振り返る。			15分	
授業の留意点	さまざまなワークショップやディスカッションをおこなう。積極的に授業に参加して欲しい					
学生に対する評価	課題提出（40点）、期末レポート（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）	必要に応じて資料を配付する。					
参考書（購入任意）	『レッジョ・エミリアと対話しながら』（カルラ・リナルディ、里見 実（訳）、ミネルヴァ書房）					

科 目 名	乳児保育 I		担当教員名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育の意義・目的・役割と、その歴史の変遷について理論的にとらえ理解する。</li> <li>・ 3 歳未満児における発達と、それを踏まえた保育内容や運営体制について理解する。</li> <li>・ 多様な乳児保育のあり方に関する現状と課題を知り、家庭や地域、また職員間の連携について理論的にとらえ理解する。</li> </ul>					
授業の概要	乳児保育の基本理念・歴史の変遷・現代的課題について学び、現代社会において乳児保育が果たす役割について考察します。そのために、乳児期の子どもの発達プロセスや、その発達を支える周囲の社会・世界のあり方を総合的に把握した上で、保育者に求められる基本的な役割と留意点を学びます。授業は、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、またグループでの作業も取り入れながら進めていきます。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ―乳児保育の役割と機能―</li> <li>2 乳児の発達と保育（1） ―未満児の発達の基本的特徴―</li> <li>3 乳児の発達と保育（2） ―未満児から以上児への移行―</li> <li>4 乳児保育の内容・方法・生活（1） ―大人・モノと遊ぶ―</li> <li>5 乳児保育の内容・方法・生活（2） ―友だちと共に・全身をつかって遊ぶ―</li> <li>6 乳児保育の内容・方法・生活（3） ―遊びと環境・文化・保育士の役割―</li> <li>7 乳児保育における親の発達と支援</li> <li>8 乳児保育における保育士のあり方</li> <li>9 乳児保育における記録と計画</li> <li>10 保育所内・外における乳児保育</li> <li>11 乳児保育の歴史・意義・役割（1） ―第二次世界大戦以後―</li> <li>12 乳児保育の歴史・意義・役割（2） ―高度経済成長期―</li> <li>13 乳児保育の歴史・意義・役割（3） ―昭和から平成へ―</li> <li>14 乳児保育をめぐる現状と課題</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業前に次回講義に関わる教科書の該当範囲に目を通したり、関連するキーワードについて調べておくこと。			90 分	
	復習	授業内で学んだ内容や追加資料、また教科書の該当範囲を再度読むなどして理解を定着させること。			90 分	
授業の留意点	適宜、グループでの作業（ディスカッションや簡単な作業など）も取り入れますので、各自が責任を持って積極的に取り組んでください。					
学生に対する評価	毎回の講義のリアクションペーパー（10 点）、中間レポート（20 点）、最終試験（70 点）をもとに総合的に評価します。					
教科書（購入必須）	乳児保育研究会（編）『資料でわかる乳児の保育新時代』 ひとなる書房					
参考書（購入任意）	心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』 有斐閣 （その他、授業の進行やリアクションペーパーの内容に応じて適宜紹介します）					

科 目 名	乳児保育Ⅱ		担当教員名	及川 智博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳未満児における子どもの発達の特徴をふまえた保育者のあり方について理解する。</li> <li>・3歳未満児にふさわしい生活、遊び、環境構成、援助および配慮について具体的かつ実践的に理解する。</li> <li>・乳児保育における計画の意義と具体的展開について理解する。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	乳児保育Ⅰおよび保育実習Ⅰでの学修を受けて、3歳未満児の発達を踏まえた保育の基本を振り返りつつ、具体的な子どもの生活や遊びの様子、環境構成のあり方、そしてそれを支えるための保育者の援助と計画のあり方を学びます。授業のなかでは、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、また現場の保育者をゲストスピーカーとした講演・演習などを通して、理論と実践の両面から理解を深めていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー乳児保育Ⅰと保育実習Ⅰを受けてー</li> <li>2 乳児保育の基本を再考する（1）ー乳児保育における未満児と保育者の関係性ー</li> <li>3 乳児保育の基本を再考する（2）ー子どもの主体性と応答のかかわりー</li> <li>4 乳児保育の基本を再考する（3）ー集団生活の意義と配慮ー</li> <li>5 乳児保育の基本を再考する（4）ー遊びと環境ー</li> <li>6 乳児保育における援助（1）ー乳児保育における1日ー</li> <li>7 乳児保育における援助（2）ー健康・安全・事故ー</li> <li>8 乳児保育における援助（3）ー食事ー</li> <li>9 乳児保育における援助（4）ー排泄と清潔ー</li> <li>10 乳児保育における援助（5）ー睡眠ー</li> <li>11 特別な配慮を要する子どもー病気・障害・虐待・ルーツー</li> <li>12 乳児保育における計画（1）ー子どもの姿・活動の記録ー</li> <li>13 乳児保育における計画（2）ー記録から指導計画へー</li> <li>14 乳児保育における計画（3）ー指導計画を作成するときのたいせつなことはー</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>					
授 業 の 予 習 ・ 復 習 の 内 容 と 時 間	予習	事前に参考書（2年次必修「乳児保育Ⅰ」で購入済）の該当範囲に目を通したり関連するキーワードについて調べたりしておく			計45分	
	復習	授業内で学んだ内容や追加資料、また教科書の該当範囲を再度読むなどして理解を定着させること				
授 業 の 留 意 点	演習（グループでの作業やディスカッション）を積極的に取り入れながら授業を進めます。各自が責任を持って、積極的に取り組んでください。					
学 生 に 対 す る 価	講義時のリアクションペーパー（20点）、授業態度および演習の様子（30点）、最終レポート（50点）の結果をもとに総合的に評価します。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定しない					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	乳児保育研究会（編）『資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房 （その他、授業の進行に応じて適宜配付します）					

科 目 名	就学児保育A（思春期の支援）		担当教員名	佐々木 彰・鈴木 勲		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士（選択）
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験をもとに、思春期の子どもたちが抱える課題への支援について教授する。					
学習到達目標	1. 現代社会における就学児保育の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 就学児保育と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 就学児保育の制度や実施体系等について理解する。 4. 就学児保育における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 就学児保育の現状と課題について理解する。 6. 就学期の子どもたちの心の問題をよく理解した上での支援が行える。					
授業の概要	思春期は、心身ともに大きな成長を遂げる時期であるが、それ故にまた、それまでの心と育ちの課題がいじめや、非行、不登校などのいわゆる「問題行動」として現れやすい時期でもある。それら「問題行動」への対応は、その後の子どもの成長に大きな影響を与える。この授業では、この時期の子どもたちをどのように理解し、支援していくかを学ぶ。					
授業の計画	1 就学児を取り巻く状況 2 神経発達症(発達障害) (担当佐々木彰) 3 愛着障害 (担当佐々木彰) 4 ストレス因関連障害(適応障害、PTSD等) (担当佐々木彰) 5 心身症、身体症状症(身体表現性障害) (担当佐々木彰) 6 反抗挑発症、素行症、窃盗症 (担当佐々木彰) 7 うつ、情緒障害、不安症 (担当佐々木彰) 8 嗜癖性障害(インターネットゲーム障害、電子メディア依存症等) (担当佐々木彰) 9 摂食障害、緘黙、チック症/トゥレット症など (担当佐々木彰) 10 虐待を受ける子どもたち 11 児童養護施設等の子どもたち 12 非行少年 13 ひきこもり・不登校児童 14 情緒障害児 15 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返る。			15分	
	復習	講義での学びを整理し、その内容と自分なりの考えを深める。			30分	
授業の留意点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。					
学生に対する評価	提出物 80点、講義における取組 20点					
教科書(購入必須)	適宜資料等を配布する。					
参考書(購入任意)	社会福祉小六法 2022 令和4年版 / ミネルヴァ書房編集部 (ISBN9784623093090) 小六法は、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考図書については、適宜授業の中で紹介する。					



科 目 名	就学児保育B（学童保育）		担当教員名	河野 和枝		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	共同学童保育所勤務や一般社団法人日本学童保育士協会の実施する「学童保育士」認証講座講師の経験を持つ教員が、学童保育所の目的や社会的存在意義・役割を示し、利用する子どもや保護者を理解し、実践者・学童保育士を養成する授業である。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育の理念・歴史・制度について理解する。</li> <li>・学童保育所を利用する子どもの生活と発達について理解する。</li> <li>・学童保育所を利用する保護者の生活実態と共同の子育て観を理解する。</li> <li>・学童保育士の業務内容と専門性について理解する。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	学童保育とは、児童福祉法で、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や学童保育士の専門性について理解し現場で発揮できる力量を獲得する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学童保育の目的と役割～放課後児童クラブ運営指針の概要について</li> <li>2 保育に活かす関係法と施策の歴史的変遷</li> <li>3 学童保育の役割と家族支援</li> <li>4 学童期の子どもの生活と発達</li> <li>5 学童保育所に通う子どもの理解</li> <li>6 子どもの健康・安全・衛生</li> <li>7 学童保育の保育計画と生活づくり</li> <li>8 障がいのある子どもを含めた生活づくり</li> <li>9 保護者との連携・地域との連携</li> <li>10 学校や関係機関との連携</li> <li>11 学童保育での食事</li> <li>12 学童保育士の専門性と子ども観</li> <li>13 学童保育所視察（1）公設学童保育所</li> <li>14 学童保育所視察（2）私設学童保育所</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の授業テーマに合わせて『放課後児童クラブ運営指針』の内容を予習しておくこと。				
	復習	毎回配付する資料に「まとめ（課題）」を提起するので、基づき復習しておく。				
授 業 の 留 意 点	授業テーマに関する課題についてグループディスカッションを行い発表を促すことがある。					
学 生 対 対 する 評 価	課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で評価する。					
教 科 書 （購入必須）	資料を授業テーマに合わせて毎回配布する。					
参 考 書 （購入任意）	『学童保育を哲学する一子どもに必要な生活・遊び・権利保障』増山均著 自治体研究社 『静かだったら、学校と同じじゃんー学童クラブの窓から』石田かづ子・増山均著、編集 新日本出版社					

科 目 名	病児・病後児保育		担当教員名	看護学科 小児看護学担当教員		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の経験を持つ教員が、子どもが病児・病後児の施設・事業所などによる保育、臨床の場の保育について教授する。					
学習到達目標	1. 病気と共に生活する子どもたちを理解する 2. 病気の子ども、病気の回復期の子どもの保育を行う際、保育士として求められる観察や対応方法を修得する 3. 家族への支援、多職種（医師、看護師など）との連携の在り方について学ぶ					
授業の概要	病児・病後児保育の現状と課題および代表的な子どもの疾病について学習したうえで、症状を観察しながらの保育について考える。また、国内外における様々な取り組みから闘病生活を送る子どもや家族への支援の実際について学ぶ。事例による演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる保育士としての専門性や実践力の獲得を目指す。					
授業の計画	1 病児・病後児保育とは 2 病児・病後児保育の概要 3 病児の理解 4 保育施設における病児保育1 5 保育施設における病児保育2 6 医療・病院施設における病児保育1 7 医療・病院施設における病児保育2 8 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 9 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 10 病児・病後児保育における子どものケア ケーススタディ1 11 病児・病後児保育における子どものケア ケーススタディ2 12 病児・病後児保育における子どものケア ケーススタディ2 13 専門職との連携 14 保護者との連携 15 病児・病後児保育のリスクマネジメント					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	保育の専門職者として、病気の子どもの生命を守り成長発達を促す保育とは何か、保育が担う責任を考えながら授業に参加することを望みます。					
学生に対する評価	課題を提出、その内容により評価 100点 課題レポート5回 各20点配点					
教科書 (購入必須)	資料を配付する					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	子どもの健康と安全		担当教員名	看護学科 小児看護学担当教員		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の経験を持つ教員が、子どもの養護、身体計測、緊急時の対応を教授する					
学習到達目標	1. 乳幼児をこころよくできる養護について理解して実施できる。 2. 乳幼児の身体計測、体温・呼吸・脈拍の測定方法がわかり実施できる。 3. 乳幼児の緊急時の応急手当てについて理解して実施できる。 4. 安全な保育環境・衛生管理について理解することができる。					
授業の概要	乳幼児の日常生活の養護、発育・健康状態の観察と評価、病気やケガなどに緊急時の対応について、演習を通して学ぶ。					
授業の計画	1 授業概要と演習についてのオリエンテーション 2 子どもの日常における養護1 3 子どもの日常における養護2 4 保育環境の整備と保育現場の衛生管理1 5 保育環境の整備と保育現場の衛生管理2 6 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康1 7 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康2 8 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康3 9 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康4 10 傷害が発生した時の対応1 11 傷害が発生した時の対応2 12 保育の場における薬の管理1 13 保育の場における薬の管理2 14 いざというときの応急処置1 15 いざというときの応急処置2					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業について提示する。関連する教科書の章・文献を読み込んでくる			15分	
	復習	本時の目標に沿って、資料などを振り返りまとめる			30分	
授業の留意点	演習時は、教員がデモンストレーションを行います。事前に教科書で手順を確認し積極的に実施できるように準備することが必要です。毎回、演習に関連した課題の提出があります。					
学生に対する評価	演習課題の提出と記載内容 100点					
教科書 (購入必須)	松本峰雄 監修 子どもの保健と安全 演習ブック ミネルヴァ書房					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	社会的養護Ⅱ		担当教員名	小山 貴博		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸問題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会的養護の実際について理解を深め、子ども達や保護者の置かれた状況について、多方面から考える。そのうえで、望ましい支援について教員と学生が一体となって考察を加える。					
学習到達目標	児童福祉領域における社会的養護の体系や実情について学ぶ。とりわけ、児童福祉施設における支援や処遇の歴史、現状、将来展望などについて探求すると共に、自らがよき支援者となることを目標として、実践的に学習する。					
授業の概要	児童養護施設を中心に、他の児童福祉施設や里親制度など、社会的養護の法制度、支援のシステム、生活している子どもたちの実情などを学び、自立支援のあり方などについて考える。児童問題全体にわたり取り上げたいが、特に被虐待児童の理解と支援について重点をおいてすすめたい。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（講義の概要と進め方）</li> <li>2 社会的養護の体系Ⅰ～社会的養護の歴史と現状</li> <li>3 社会的養護の体系Ⅱ～社会的養護の法制度、支援のシステム</li> <li>4 施設養護の実際Ⅰ～児童養護系の施設（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）の現状</li> <li>5 施設養護の実際Ⅱ～児童養護施設の生活形態と支援の実際</li> <li>6 施設養護の実際Ⅲ～児童養護施設における支援のあり方と児童の権利擁護</li> <li>7 家庭的養護の実際～里親制度と養子縁組制度</li> <li>8 施設養護の実際Ⅳ～施設養護と家庭的養護の比較</li> <li>9 施設養護の実際Ⅴ～児童自立支援施設、自立援助ホームにおける支援</li> <li>10 施設養護の実際Ⅵ～障害のある子どもの施設①（知的障害児施設、情緒障害児短期治療施設）</li> <li>11 施設養護の実際Ⅶ～障害のある子どもの施設②（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設）</li> <li>12 ケース記録・生活記録の意義と記録法</li> <li>13 自立支援計画の策定の意義と方法</li> <li>14 児童福祉施設の職員になるために～実習や就職活動の心構えと職員に求められるもの</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	資料の事前検討			90分	
	復習	講義の振り返り			90分	
授業の留意点	(1) 社会的養護関連のニュースや動向などに興味・関心を持って授業に臨むことを求めます。 (2) 講義中に関係無い私語は、他学生の講義を受ける権利を侵害するため、厳禁とする。					
学生に対する評価	筆記試験（100%）※3分の2以上の出席が大前提である。					
教科書（購入必須）	適宜資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	子育て支援		担当教員名	鈴木 勲		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験をもとに、子育て支援の基礎、応用について教授する。					
学 習 到 達 目 標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
授 業 の 概 要	子育て支援の概要、体系及び方法と技術、関係機関との連携や協働について基本的な知識を理解したうえで、子育て支援の具体的展開事例、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。子育て支援の個々の課題についても、理論と実際の双方から具体的に考える。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの保育とともにを行う保護者の支援</li> <li>2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</li> <li>3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解</li> <li>4 子ども及び保護者の状況・状態の把握</li> <li>5 支援の計画と環境の構成</li> <li>6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス</li> <li>7 職員間の連携・協働</li> <li>8 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</li> <li>9 保育所等における支援</li> <li>10 地域の子育て家庭に対する支援</li> <li>11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援</li> <li>12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援</li> <li>13 子ども虐待の予防と対応</li> <li>14 要保護児童等の家庭に対する支援</li> <li>15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返る。			15分	
	復習	講義での学びを整理し、その内容と自分なりの考えを深める。			30分	
授 業 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。					
学 生 に 対 す る 価 値	学期末試験 100 点 定期試験では全体的な基礎知識を問う。子育て支援に関する今日的な課題について、問題意識を持って受講するようにして下さい。					
教 科 書 (購入必須)	適宜資料等を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。					

科 目 名	子ども理解と教育相談		担当教員名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>保育所や児童家庭支援センター、子育て支援NPOなどにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子どもの社会性や人間関係構築の支援方法などについて指導する科目</p>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、指導上の省察や記録の仕方について知る。</li> <li>・ 発達障害についての理解と特別な支援を必要とする保育の留意点について説明できる。</li> <li>・ 乳幼児の発達や保育に関する保護者への共感的理解や援助を知る。</li> <li>・ 保育者に求められるカウンセリングマインドについて学び、事例に基づいた対応を検討することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>近年の保育者は子どもたちの保育だけではなく、子育て支援の役割が期待されている。そこで保護者への子育て支援場面において必要とされるカウンセリングマインドや基本的なカウンセリング技法について学ぶ。保育の場における教育相談において重要な発達障害に関する理解を深める。また保育者が行う相談援助の役割は、子どもの個体史や子どもを取り巻く社会文化を含めた広い視野からその発達特性を理解し、支援することを通じて果たされることを事例検討を通じて学ぶ。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の場における教育相談の基本的視点</li> <li>2 保育カウンセリングに求められること</li> <li>3 保護者への対応と子育て支援</li> <li>4 子どもの発達理解と支援（1）乳幼児期の発達理解と支援</li> <li>5 子どもの発達理解と支援（2）子どもにとっての遊びとは</li> <li>6 子どもの発達の特徴をとらえるためのアセスメント</li> <li>7 子どもの心理臨床①：自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害（LD）</li> <li>8 子どもの心理臨床②：言語発達遅滞、発達障害が引き起こす2次障害</li> <li>9 発達障害が気になる子どもとその保護者への理解と支援</li> <li>10 保育におけるカウンセリング技法の活用（1）</li> <li>11 保育におけるカウンセリング技法の活用（2）</li> <li>12 子ども相談と連携：園や地域での専門職連携（IPW）とソーシャルワーク</li> <li>13 保育者の専門性と相談活動</li> <li>14 事例検討（1）保育・教育相談の実践</li> <li>15 事例検討（2）保育・教育相談の実践</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。			90分	
	復習	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献を読む。			90分	
授業の留意点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べることを期待する。					
学生に対する評価	試験（70点） 講義時におけるリアクションペーパー（30点）					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	児童文化演習		担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎																															
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習																													
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択																													
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。																																		
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目																																		
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面に活用することができる。																																		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、絵本読み聞かせの実演を全員に課す。</li> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、展開可能な工作指導の技術を身につける。</li> <li>・子どもに向き合うことを想定し、パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。</li> <li>・適切な作品理解のために、絵本作家による講義を通して絵本の理解を深める。</li> </ul>																																		
授業の計画	<table border="1"> <tr> <td>1 オリエンテーション (担当:堀川)</td> <td>16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)</td> <td>17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)</td> <td>18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)</td> <td>19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)</td> <td>20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)</td> <td>21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)</td> <td>22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)</td> <td>23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)</td> <td>24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)</td> <td>25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)</td> <td>26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)</td> <td>27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)</td> <td>28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)</td> <td>29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)</td> <td>30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)</td> </tr> </table>					1 オリエンテーション (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)	2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)	3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)	4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)	5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)	6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)	7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)	8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)	9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)	10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)	25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)	11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)	26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)	12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)	27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)	13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)	28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)	14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)	29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)	15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)
1 オリエンテーション (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)																																		
2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)																																		
3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)																																		
4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)																																		
5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)																																		
6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)																																		
7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)																																		
8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)																																		
9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)																																		
10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)	25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)																																		
11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)	26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)																																		
12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)	27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)																																		
13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)	28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)																																		
14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)	29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)																																		
15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)																																		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			90分																														
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。																																	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。																																		
学生に対する評価	授業における発表(50点)、制作物(50点)																																		
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。																																		
参考書(購入任意)	特になし																																		

科 目 名	自然保育実践演習		担当教員名	三井 登・菊池 稔																															
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習																													
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件																														
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>																																		
実務経験及びそれに関わる授業内容																																			
学習到達目標	自然に対する理解を深める。自然の中で生活することができる。自然の中で遊びをつくりだすことができる。リーダーとしての力を身につける。																																		
授業の概要	この授業は、子どもの発達と自然の関係について理論的に学び、地域の自然環境を生かした保育実践を構想し、実践的に学び、方法を習得することを目的とする。子どもと自然の関係に関する理論と、先住民族文化、人間と自然の対立構造などを理論的に学ぶ。四季を通じた自然の中での生活や遊びの保育計画を5領域との関係を明確にしながら構想し実践することを通じて方法的理解を深める。方法の習得によって、自然体験リーダーの素養を身に付ける。																																		
授業の計画	<table border="1"> <tr> <td>1 ガイダンス 道北の自然</td> <td>16 自然の中で生活するー野山で自生するものを食べるー</td> </tr> <tr> <td>2 春の森ー名寄の森あるき</td> <td>17 自然の中で遊ぶー名寄の森あるきー</td> </tr> <tr> <td>3 保育における自然ー豊かな自然を生かすー</td> <td>18 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)</td> </tr> <tr> <td>4 保育における自然ー都市部の実践 身近な自然を感じるー</td> <td>19 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)</td> </tr> <tr> <td>5 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)</td> <td>20 自然の中で遊ぶー名寄の森あるき 冬ー</td> </tr> <tr> <td>6 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)</td> <td>21 自然の中で遊ぶー名寄の森歩き 冬ー</td> </tr> <tr> <td>7 奥山、里山、宮沢賢治</td> <td>22 森と経済の関係</td> </tr> <tr> <td>8 先住民族と自然</td> <td>23 森と社会の関係</td> </tr> <tr> <td>9 野生動物と人間</td> <td>24 自然の中で遊ぶー雪遊び 寒さを利用した遊びー</td> </tr> <tr> <td>10 リーダー論</td> <td>25 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー</td> </tr> <tr> <td>11 自然の中で生活するー住居ー</td> <td>26 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー</td> </tr> <tr> <td>12 自然の中で生活するー食器をつくるー</td> <td>27 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー</td> </tr> <tr> <td>13 自然の中で生活するー火おこし ご飯を炊くー</td> <td>28 冬の道北の自然を体験的に理解する</td> </tr> <tr> <td>14 自然の中で生活するー食事を作る 汁物を作るー</td> <td>29 冬の道北の自然を体験的に理解する</td> </tr> <tr> <td>15 自然の中で生活するー野山に自生するものを食べるー</td> <td>30 グループワークー振り返りとまとめの発表ー</td> </tr> </table>					1 ガイダンス 道北の自然	16 自然の中で生活するー野山で自生するものを食べるー	2 春の森ー名寄の森あるき	17 自然の中で遊ぶー名寄の森あるきー	3 保育における自然ー豊かな自然を生かすー	18 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)	4 保育における自然ー都市部の実践 身近な自然を感じるー	19 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)	5 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)	20 自然の中で遊ぶー名寄の森あるき 冬ー	6 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)	21 自然の中で遊ぶー名寄の森歩き 冬ー	7 奥山、里山、宮沢賢治	22 森と経済の関係	8 先住民族と自然	23 森と社会の関係	9 野生動物と人間	24 自然の中で遊ぶー雪遊び 寒さを利用した遊びー	10 リーダー論	25 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	11 自然の中で生活するー住居ー	26 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	12 自然の中で生活するー食器をつくるー	27 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	13 自然の中で生活するー火おこし ご飯を炊くー	28 冬の道北の自然を体験的に理解する	14 自然の中で生活するー食事を作る 汁物を作るー	29 冬の道北の自然を体験的に理解する	15 自然の中で生活するー野山に自生するものを食べるー	30 グループワークー振り返りとまとめの発表ー
1 ガイダンス 道北の自然	16 自然の中で生活するー野山で自生するものを食べるー																																		
2 春の森ー名寄の森あるき	17 自然の中で遊ぶー名寄の森あるきー																																		
3 保育における自然ー豊かな自然を生かすー	18 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)																																		
4 保育における自然ー都市部の実践 身近な自然を感じるー	19 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)																																		
5 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)	20 自然の中で遊ぶー名寄の森あるき 冬ー																																		
6 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習 (研究林の教職員と連携)	21 自然の中で遊ぶー名寄の森歩き 冬ー																																		
7 奥山、里山、宮沢賢治	22 森と経済の関係																																		
8 先住民族と自然	23 森と社会の関係																																		
9 野生動物と人間	24 自然の中で遊ぶー雪遊び 寒さを利用した遊びー																																		
10 リーダー論	25 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー																																		
11 自然の中で生活するー住居ー	26 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー																																		
12 自然の中で生活するー食器をつくるー	27 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー																																		
13 自然の中で生活するー火おこし ご飯を炊くー	28 冬の道北の自然を体験的に理解する																																		
14 自然の中で生活するー食事を作る 汁物を作るー	29 冬の道北の自然を体験的に理解する																																		
15 自然の中で生活するー野山に自生するものを食べるー	30 グループワークー振り返りとまとめの発表ー																																		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で紹介した資料や文献を読んでおくこと。			45分																														
	復習																																		
授業の留意点	健康上の配慮が必要な学生は事前に相談すること。配布した資料や、野外活動で見た自然界の諸々のことについて、図鑑などで調べて復習しておくこと。																																		
学生に対する評価	提出物100点																																		
教科書 (購入必須)	なし																																		
参考書 (購入任意)	講義時に提示する。																																		



科 目 名	子どもと言葉		担当教員名	石本啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	(1) 子どもの言葉の発達に関する知識を修得する。 (2) 子どもの言葉に関する教育と保育の諸問題を理解する。					
授 業 の 概 要	前半は、言葉の発達にかかわる保育者に必要とされる専門的知識を提供する。受講者はその知識をディスカッションやワークショップ等を通して獲得し、「言葉」について既に持っている常識を問い直す。それに基づいて後半は、幼児教育をはじめとする言葉に関わる多様な実践を読み解き、言葉の発達にかかわる保育者の役割について理解を深める。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 言葉の進化① チンパンジーと人間の比較 3 言葉の進化② 意味世界をつくり出す 4 子どもの言葉の発達① 音と言葉の比較 5 子どもの言葉の発達② 言葉以前のコミュニケーション 6 子どもの言葉の発達③ 話し言葉と書き言葉の比較 7 想像と言葉① 擬音語とイメージ 8 想像と言葉② ごっこ遊び 9 想像と言葉③ 描画と書き言葉 10 言葉に関わる多様な実践① 幼児教育における文字遊び 11 言葉に関わる多様な実践② 学校における作文 12 言葉に関わる多様な実践③ 精神障害者施設における対話 13 言葉に関わる多様な実践④ 幼児教育における児童文化財の利用 14 言葉に関わる多様な実践⑤ 児童文化財を媒介したごっこ遊び 15 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			30分	
	復習	授業内容を振り返る。			15分	
授業の留意点	さまざまなワークショップやディスカッションを行う。積極的に参加して欲しい。					
学生に対する評価	授業への参加を20点、課題提出を30点、期末レポートを50点として評価する。					
教科書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。					
参考書 (購入任意)	『幼児期—子どもは世界をどうつかむか—』(岡本夏木著、岩波書店)					

科 目 名	子どもと環境		担当教員名	菊池 稔		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然遊びを企画し、展開できる。</li> <li>・ 栽培活動・緑化活動を主体的に展開できる。</li> <li>・ 幼児を取り巻く様々な環境について説明できる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	この講義は、幼児や子どもが関わる様々な環境を自ら体験してもらって体験型授業として展開する。そのうえで、大学が設置している地域に着目し、地域にどのような施設や自然があるのか調査する。そして、どのような保育や教育ができるのか考え、地域に根ざした保育・教育が展開できる知識や感性、技能を体得していくことを目指していく。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、幼児教育・保育における環境ってなんだろう。</li> <li>2 保育内容「環境」、幼稚園教育要領の「環境」を理解しよう</li> <li>3 国内外の環境を活かした保育・幼児教育実践を知ろう</li> <li>4 幼児と植物① 植物を観察する方法、育て方、保育に活かす方法を考える</li> <li>5 幼児と植物② 実際に植物・野菜を栽培しよう。</li> <li>6 幼児と自然① 自然観察のやり方、自然を感じる感性を高めよう。</li> <li>7 幼児と自然② 自然を活かした遊びを考えよう</li> <li>8 幼児と自然③ 考えた自然遊びを体験しよう</li> <li>9 幼児と動物① 子どもと動物のふれあいの重要性について考える</li> <li>10 幼児と地域① 幼児が過ごす地域の生活を知る</li> <li>11 幼児と地域② 地域調査「地域の宝物マップ」をつくろう。</li> <li>12 幼児と地域③ 地域調査発表会</li> <li>13 幼児と植物③ 野菜の収穫方法と食育についての指導方法</li> <li>14 幼児の成長段階と環境構成を理解しよう</li> <li>15 講義のふりかえり・まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	必要なし				
	復習	講義時間外の栽培活動・緑化活動に参加する（草むしりや水やり）			45分	
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な議論を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。					
学 生 に 対 す る 価 値	毎回のリアクションペーパー（15点）受講態度（15点）、提出物（20点）、課題発表（20点）、期末レポート（30点） ※受講態度は、各体験の積極性などで判断する。					
教 科 書 （購入必須）	内閣府・文部科学省・厚生労働省著、「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、チャイルド本社。					
参 考 書 （購入任意）	後藤和佳子著、森川紅監修、「身近な自然で楽しい保育!」、ひかりのくに。					

科 目 名	子どもと音楽表現 I		担当教員名	三国 和子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、リズム運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得する。 子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動を構成し、実践できる。					
授業の概要	おとなとは異なる子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。知識・理論とともに実技を行い、身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱や器楽のあり方について学ぶ。さらには、音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。					
授業の計画	1 音名と階名、音部記号 (理論と音楽あそびの演習)		16 歌唱の基礎			
	2 リズム(1)拍とテンポ (理論と音楽あそびの演習)		17 子どもの歌(1) ピアノを用いて			
	3 リズム(2)拍子と音符・休符		18 子どもの歌(2) リコーダーを用いて①			
	4 リズム(3)さまざまなリズム		19 子どもの歌(3) リコーダーを用いて②			
	5 長調と短調、#とbなど		20 子どもの歌(4) 替え歌			
	6 音楽と動き(1) わらべうた①		21 音楽遊びをつくる			
	7 音楽と動き(2) リトミック①		22 合唱			
	8 音楽と動き(3) わらべうた②とリトミック②		23 子どもと楽しむ音楽会の構想			
	9 音楽と動き(4) ダンス① 拍を意識したステップ		24 子どもと楽しむ音楽会(1) 企画立案、役割分担			
	10 音楽と動き(5) ダンス②幼児に適した音楽と動き		25 子どもと楽しむ音楽会(2) グループごとの準備、プログラム決定			
	11 音楽と動き(6) 音楽遊び		26 子どもと楽しむ音楽会(3) グループごとの準備、手直し			
	12 いろいろな音を聴く		27 子どもと楽しむ音楽会(4) グループごとの準備、確認			
	13 楽器遊び(1) 幼児に適した楽器		28 子どもと楽しむ音楽会(5) リハーサル			
	14 楽器遊び(2) ミュージックベル		29 子どもと楽しむ音楽会(6) 本番			
	15 楽器遊び(3) 合奏		30 音楽会の振り返り			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する疑問点を整理しておく。			15分	
	復習	授業を振り返り、理解や技能獲得などが不足していると思われる箇所を補足する。			30分	
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となる。					
学生に対する評価	ペーパーテスト(60点)、日常の課題・実技評価(40点)により評価する。					
教科書(購入必須)	特になし					
参考書(購入任意)	小林美実『こどものうた200』チャイルド社、『たのしいドレミファランド』。 (購入については担当教員から別途指示) 必要に応じてプリントを配付。					

科 目 名	子どもと音楽表現Ⅱ		担当教員名	三国 和子・会見 泉・上田 明美・尾崎 美千代・鎌塚 香代		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコードネームを見て、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を修得する。					
授業の概要	まず、子どもが歌唱する際に楽曲の習熟度に応じてピアノ伴奏ができるよう、コードネームによる伴奏付けを学ぶ。次に、他者のリズムに合わせて演奏できるよう連弾を行う。さらに、個々の演奏技術を高めるためにソロ曲の演奏も行う。					
授業の計画	1 コードネームの基礎(メジャーコード、マイナーコード、セブンス) 2 右手メロディーと左手和音(1)C、F、Gを中心に 3 右手メロディーと左手和音(2)G、C、Dを中心に 4 右手メロディーと左手和音(3)F、Bb、Cを中心に 5 右手メロディーと左手和音(4)Am、Dm、E、Em、B、を中心に 6 右手メロディーと左手和音(5)Gm、Aを中心に 7 右手和音と左手ベース音(1)メジャー 8 右手和音と左手ベース音(2)マイナー 9 右手和音と左手ベース音(3)ベース音の動き 10 右手和音と左手ベース音(4)ディミニッシュ、オーギュメント 11 右手和音と左手ベース音(5)メジャーセブン 12 右手和音と左手ベース音(6)サスペンディド 13 右手和音と左手ベース音(7)歌唱伴奏 14 伴奏付け発表会(前半グループの演奏) 15 伴奏付け発表会(後半グループの演奏)		16 連弾(1)個人練習(1)譜読み・補正 17 連弾(2)個人練習(2)アゴーギグ、ダイナミクス 18 連弾(3)流れの確認 19 連弾(4)総合表現 ダイナミクス、バランス 20 連弾(5)総合表現 アゴーギグ、タイミング 21 連弾(6)仕上げ 22 連弾発表会(前半グループの演奏) 23 連弾発表会(後半グループの演奏) 24 ソロ曲練習(1)譜読み 25 ソロ曲練習(2)譜読みの補正 26 ソロ曲練習(3)譜読みの補正、ダイナミクス 27 ソロ曲練習(4)譜読みの補正、アゴーギグ 28 ソロ曲練習(5)総合表現、暗譜 29 ソロ曲練習(6)総合表現、暗譜の補正 30 ソロ曲練習(7)仕上げ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	前回の授業で出された課題に取り組む。			30分	
	復習	前回の授業を振り返り、留意点を確認する。			15分	
授業の留意点	グループ単位での個人レッスンを基本的な授業形態とするため、特に欠席・遅刻等についての連絡を怠らないこと。					
学生に対する評価	前期に行う伴奏付け発表会(20点)、後期に行う連弾発表会(20点)およびソロ発表会(20点)の演奏、および日常の課題への取り組み(40点)による。					
教科書(購入必須)	『新版 たのしいドレミファ・ランド』教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』教育芸術社 ※購入については担当教員から別途指示。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	保育者の音楽技能（ギター）		担当教員名	松本 敏正		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	音楽 I での学修を踏まえ、アコースティックギターを用いて子どもの歌の伴奏ができる技術的能力を修得する。					
授 業 の 概 要	演奏しながら子どもたちの輪の中を自由に移動できるギターは、保育現場で子どもが歌う際の伴奏楽器として、大きな利点がある。また、自由性の高い演奏が可能な点から、子どもたちの創造性、コミュニケーション力を育む効果が期待出来る。この講義では、アコースティックギターによる伴奏法を学ぶ。左手でコードをおさえ、右手でストロークやアルペジオなどの奏法を用いて演奏できるようにし、最終的には弾き語りしながら歌うことが出来るように、段階を踏んで演奏技術の向上を目指し、ギターを用いてどのように保育現場に活かすかを学び、実践の入り口とする。					
授 業 の 計 画	1	アコースティックギターに必要な基礎知識、チューニングの仕方について	16	前期ストローク曲の総復習		
	2	コードネーム、ダイヤグラムの基礎、基礎練習クロマチック練習	17	アルペジオ演奏の基礎		
	3	主要コードの押さえ方（C、G、D）	18	様々なアルペジオのパターン		
	4	主要コードの押さえ方（Bm、Em、Am）、押さえ方の練習	19	アルペジオで伴奏しながら歌唱練習		
	5	コードチェンジのコツ、ストローク練習	20	作詞・作曲の仕方（導入編）		
	6	弦交換の仕方から、実践まで	21	ストローク、アルペジオを組み合わせた弾き方		
	7	主要コードの応用（セブンスコード）	22	ストローク、アルペジオを応用した様々な曲の練習		
	8	セブンスコードを使用した童謡曲	23	アルペジオテストの為の個人練習		
	9	バレーコード（F、Bなどを中心に）	24	アルペジオテスト発表		
	10	主要コードの応用（add9th、sus4）	25	グループ発表のメンバー決め、曲決め		
	11	ミュート、カッティングについて	26	グループ発表練習①		
	12	様々な応用テクニック（ハンマリングオン、プリングオフ、スライド）	27	グループ発表練習②		
	13	ストロークで伴奏しながら歌唱練習	28	グループ発表仕上げ（表現の仕方、弾き方等）		
	14	ソロ曲発表会（前半）	29	グループ発表会（前半）		
	15	ソロ曲発表会（後半）	30	グループ発表会（後半）		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に購入した参考書の最初「基礎知識」を読んでおく。				
	復習	講義で学んだコード等を反復しておく。			15分	
授業の留意点	基本的には、ギターの初学者・初心者を対象とした実技授業である。					
学生に対する評価	前期に行う伴奏付けソロ発表会（20点）、後期に行うグループ発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。					
教科書（購入必須）	『知識ゼロからのアコースティック・ギター入門（ゴンチチ）』幻冬舎					
参考書（購入任意）						

科 目 名	子どもと造形表現 I		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感して楽しむことができる。					
授業の概要	子どもの感性を高めることを目的として、造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作</li> <li>2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ)</li> <li>3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー)</li> <li>4 工作 (1) お面、かぶりもの</li> <li>5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装</li> <li>6 工作 (3) ストロー人形</li> <li>7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ</li> <li>8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット</li> <li>9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ</li> <li>10 工作 (7) 紙版画、ステンシル</li> <li>11 工作 (8) とびだすカード</li> <li>12 工作 (9) 折紙</li> <li>13 工作 (10) 音を出してみる</li> <li>14 工作 (11) 壁面構成</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(70点)、発表(30点)。					
教科書(購入必須)	特になし					
参考書(購入任意)	『3・4・5歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)					

科 目 名	子どもと造形表現Ⅱ		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目					
学習到達目標	「図画工作Ⅰ」での学修を踏まえ、応用的造形技法の制作を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。					
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、子どものための一般的な造形技法のみならず、より高度な制作活動を行う。</li> <li>・子どもに向き合うことを想定し、日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。</li> </ul>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（木工・箸をつくる）</li> <li>2 窯芸（1） 成形</li> <li>3 窯芸（2） 焼成</li> <li>4 仮装（1） 構想と制作</li> <li>5 仮装（2） 制作と発表会</li> <li>6 紙版画（1） カレンダー制作・製版</li> <li>7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷</li> <li>8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作</li> <li>9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担</li> <li>10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる</li> <li>11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる</li> <li>12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫</li> <li>13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正</li> <li>14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(50点)、発表(50点)。					
教科書（購入必須）	必要に応じてその都度、プリントを配付する。					
参考書（購入任意）	特になし。					

科 目 名	子どもと健康		担当教員名	三井 登		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	子どもの健康課題と健康の発達の意味について説明できる。子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達について知識・技術を修得する。					
授 業 の 概 要	子どもの健康について、発達を支える重要な要素であることを歴史的社会的文脈の中で捉える。運動発達と健康課題の関係を、個人・集団・社会の中における矛盾の層として捉え、矛盾を乗り越える契機を具体的に検討し、そこでの保育者の役割を明らかにし、子どもの発達の原動力とは何かを明らかにする。同時にそれは生活全般の中で起こることから、生活の自立、生活習慣の形成、安全、疾病予防などについても上記の視点から言及することになる。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 子どもの健康課題の現状 2 健康の歴史 実態と概念 「発達」の概念史 3 幼児教育要領と保育所保育指針における健康の位置づけ 4 健康問題を捉える3つの系 個人・集団・社会 5 乳児期の運動発達と健康 6 幼児期の運動発達と健康 7 乳幼児期の健康の意義と定義について考える 8 乳幼児期の発達の特徴と環境との関わり 対象への働きかけによる身体と環境の変化 9 乳幼児期の基礎的な生活習慣の形成 運動、食事、睡眠 10 身体づくりと食育の一体的な実践 事例紹介・検討 11 乳幼児期における多様な動きの獲得① 運動あそび 12 乳幼児期における多様な動きの獲得② 外あそび 13 乳幼児期における多様な動きの獲得③ 道具を使ったあそび 14 乳幼児期における多様な動きの獲得④ ルールのあるあそび 15 子どもの安全教育・疾病予防対策の歴史・現状・課題					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で紹介した文献を読んでおくこと。			45分	
	復習					
授業の留意点	動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。授業で紹介した文献等については、授業後に参照しておくこと。					
学生に対する評価	提出物100点により評価する。					
教科書（購入必須）	特になし。その都度、必要な資料を配付する。					
参考書（購入任意）	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年。田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年。北村晋一『乳幼児の運動発達と支援』群青社、2013年。浜田寿美男訳編『ワロン/身体・自我・社会』ミネルヴァ書房、1983年。汲田克夫『近代保険思想史序説』医療図書出版社、1974年。					



科 目 名	子どもと人間関係		担当教員名	及川 智博		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について歴史・実証的な視点をもとに理解する。</li> <li>・ 保育を通した人間関係の発達について、関係論の視点から理解する。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>領域「人間関係」の指導の基盤となる、子ども同士、また子どもと大人の社会的な関わりについて、子育て・保育の歴史、心理学における実証研究の知見、そして保育実践事例の分析をもとに総合的に理解します。映像資料や実践記録を豊富に用いるほか、ディスカッションを通して意見を交わすことで、自身が人と関わる際の視点について見つめ直しつつ、子どもの人間関係を育むための、専門的支援者としての基礎を培います。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー子どもの人間関係を育てるとはどういうことかー</li> <li>2 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷（1）ー自身の子どもの時代から考えるー</li> <li>3 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷（2）ー少子化以前の家族・地域・子どもー</li> <li>4 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷（3）ー平成から現代までの課題を理解するー</li> <li>5 大学生の人間関係から子どもをみつめるー育てたい資質を主体的に考察するー</li> <li>6 0歳児の人間関係の発達と援助ー自立心の育ちの支援と遊びを中心にー</li> <li>7 1歳児の人間関係の発達と援助ー自立心の育ちの支援と遊びを中心にー</li> <li>8 2歳児の人間関係の発達と援助ー道徳性・規範意識の芽生えの支援を中心にー</li> <li>9 3歳児の人間関係の発達と援助ー道徳性・規範意識の芽生えの支援を中心にー</li> <li>10 4歳児の人間関係の発達と援助ー5歳児の協同性へ向けた萌芽を育むー</li> <li>11 5歳児の人間関係の発達と援助ー協同性の育ちをつかみ支援するー</li> <li>12 保育実践記録の分析（1）ー保育者と子どものかかわりを通して関係的に育てるー</li> <li>13 保育実践記録の分析（2）ー子ども同士の関わりを通して関係的に育てるー</li> <li>14 保育実践記録の分析（3）ーインクルーシブな関係を実現させる援助をつかむー</li> <li>15 まとめー人間関係から一人ひとりの人生を豊かにするためにー</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業前に次回講義に関わるキーワードや子どもの具体的事例について調べておく			45分	
	復習	授業内で学んだ内容や追加資料等に再度目を通すなどして理解や学びを定着させること				
授 業 の 留 意 点	適宜、グループでの作業（ディスカッションや簡単な作業など）も取り入れますので、各自が責任を持って積極的に取り組んでください。					
学 生 に 対 す る 評 価	毎回のショートレポート（20点）、期末レポート（80点）					
教 科 書 （購入必須）	指定しない					
参 考 書 （購入任意）	<p>無藤 隆・古賀松香(編)(2016) 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは 北大路書房</p> <p>神田英雄(2013)0歳から3歳：保育・子育てと発達研究をむすぶ 乳児編 ちいさいなかま社</p> <p>神田英雄(2013)3歳から6歳：保育・子育てと発達研究をむすぶ 幼児編 ちいさいなかま社</p>					

科 目 名	児童文化		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 5. 地域において子どもにかかわる多種機関の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化に関する知識と実際を知り、日本の子ども文化の特性を理解する。</li> <li>・児童文化が保育分野に果たす役割を考えつつ、その特性や実践上の留意点について理解するとともに、地域と協働する文化活動に資する力を持つ。</li> </ul>					
授業の概要	子ども理解につなげるために、伝承あそびからおもちゃ・絵本・紙芝居等まで、児童文化にかかるものを紹介し、それが果たす役割について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況</li> <li>2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び</li> <li>3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演</li> <li>4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ</li> <li>5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介</li> <li>6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様</li> <li>7 紙芝居について 発達史と上演の留意点</li> <li>8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇</li> <li>9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力</li> <li>10 絵本小史 絵本の歴史と20世紀初頭海外の展開</li> <li>11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開</li> <li>12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮</li> <li>13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫</li> <li>14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について</li> <li>15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICT等を活用し、テーマにかかる内容の情報を収集し、ノートにまとめる。			90分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	科目の性格上、講義科目であるが演習的要素を含むので、実技の予習復習も行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	3回の小レポート(60点)、レポート(40点)					
教科書(購入必須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。					
参考書(購入任意)	特になし。					

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		担当教員名	郡司竜平	
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た内容を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。</li> <li>2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。</li> <li>3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。</li> <li>4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。</li> <li>5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。</li> </ol>				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) インクルーシブ保育を支える理念、</li> <li>(2) 障害等の理解と保育における発達の援助、</li> <li>(3) インクルーシブ保育の実際、</li> <li>(4) 家庭及び関係機関との連携、</li> <li>(5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。</li> </ol>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？）</li> <li>2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援）</li> <li>3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度）</li> <li>4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性）</li> <li>5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状）</li> <li>6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状）</li> <li>7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状）</li> <li>8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について）</li> <li>9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携）</li> <li>10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携）</li> <li>11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成）</li> <li>12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために）</li> <li>13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで）</li> <li>14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性）</li> <li>15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題）</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書、講義内で提示された資料を中心に予習と資料や討論で話し合われた内容の整理を復習をすること。		45分	
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	毎回の講義に対するリアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				

科 目 名	障がい児福祉		担当教員名	大友 愛美		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	発達障がいを正しく理解することで、合理的配慮の具体的な方法をイメージできるようになる。					
授業の概要	障がいの考え方を学んだうえで、実践現場で行われている具体的な支援方法を知る。実践場面の映像（動画や写真）を使いながら、アセスメントや支援の組み立てなど、より実際的な支援について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 発達支援の実際—福祉的な援助の視点とは—</li> <li>2 障がいの概念—ICFの理解—（社会モデルの視点）</li> <li>3 ASD（自閉スペクトラム症）を正しく理解する（自閉症の世界を体験する）</li> <li>4 ASDの子どもたちとのかかわり方1（行動特性と認知特性を理解する）</li> <li>5 ASDの子どもたちとのかかわり方2（アセスメントの実際）</li> <li>6 ASDの子どもたちとのかかわり方3（課題分析と支援の実際）</li> <li>7 ASDの子どもたちとのかかわり方4（支援の修正と自立課題）</li> <li>8 ASDの子どもたちとのかかわり方5（自立支援と社会のルール）</li> <li>9 ASDの子どもたちとのかかわり方6（コミュニケーション支援の方法）</li> <li>10 ASDの子どもたちとのかかわり方7（知的障がいのないASDの子どもへの支援）</li> <li>11 LDの子どもたちへのかかわり方（LDと学習機会の保障）</li> <li>12 ABAとABC機能分析（行動に意味があることを知る）</li> <li>13 ADHDの子どもたちへのかかわり方（発達障がいと二次障害）</li> <li>14 家族支援からみたコミュニケーション支援（家族支援と本人支援の関係性）</li> <li>15 特性理解を広めるために（家族支援の必要性和チーム連携）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	演習科目のため、数コマ続きの内容もあるため、欠席のないよう留意すること。					
学生に対する評価	レポート（70点）および授業後の小レポート（30点）					
教科書（購入必須）	その都度必要に応じてプリントを配布する。					
参考書（購入任意）	テンプル・グランディン／リチャードパネク著『自閉症の脳を読み解く』2014年NHK出版 トーマス・E・ブラウン著『ADHD 集中できない脳をもつ人達の本当の困難』2010年診断と治療社					

科 目 名	障害児支援の基礎理論		担当教員名	未定		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、特別支援教育やインクルーシブ教育システムについて指導する科目					
学習到達目標	1 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムの概要について説明することができる。 2 発達障害や講義で取り扱った各障害の特性について説明することができる。 3 就学支援の制度や特別支援教育コーディネーターの役割について説明することができる。					
授業の概要	障害児への適切な支援をするために、特別支援教育を推進するための体制整備、インクルーシブ教育システム、発達障害等の障害特性に関する知識を習得する。					
授業の計画	1 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム 3 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（1）LD、ADHD 4 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（2）自閉症スペクトラム障害 5 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（3）視覚障害、聴覚障害 6 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（4）知的障害 7 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（5）肢体不自由、病弱・身体虚弱 8 特別支援学校の教育課程 9 特別支援学級と通級による指導の教育課程 10 個別の教育支援計画と個別の指導計画 11 就学支援と福祉制度 12 特別支援教育コーディネーターと校・園内支援体制 13 関係機関と連携した支援体制 14 特別支援学校の教育の実際 15 インクルーシブ教育システムと共生社会					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	特別支援教育に関する基礎的・基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、試験（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	教職をめざす人のための特別支援教育：福村出版					
参考書（購入任意）						

科目名	知的障害者の心理・生理・病理		担当教員名	奥村 香澄		
学年配当	2年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択		資格要件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。					
授業の概要	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習</li> <li>2 知的障害の定義 障害の認定と教育</li> <li>3 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生機序、学習や行動の特徴</li> <li>4 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価</li> <li>5 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因</li> <li>6 脳機能の発達 定型発達児の発達</li> <li>7 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学</li> <li>8 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力</li> <li>9 脳機能障害児の運動特性 操作、協調性運動発達障害</li> <li>10 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症</li> <li>11 知的障害児の社会性の発達 経験、学習</li> <li>12 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析</li> <li>13 ダウン症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</li> <li>14 Williams 症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</li> <li>15 その他の染色体異常 コーネリア・デ・ランゲ、フェニールケトン尿症、レット症候群、ソトス症候群</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や知的障害に関わる文献を読む。			90分	
	復習	講義内容の振り返り。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版					

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理		担当教員名	田中 肇		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員と医療型障害児入所施設の院長である医師が、肢体不自由児の心理・生理・病理及び支援について指導する科目					
学習到達目標	1 肢体不自由の主な起因疾患について説明することができる。 2 肢体不自由児の障害特性や健康管理について説明することができる。 3 肢体不自由児の支援について自分の考えを述べるることができる。					
授業の概要	肢体不自由児への適切な支援をするために、肢体不自由児の障害特性や健康管理、肢体不自由の起因疾患、脳性麻痺等の病態に関する知識を習得する。					
授業の計画	1 肢体不自由とは 2 運動発達の仕組み 3 運動発達と障害 4 肢体不自由の起因疾患 5 脳性麻痺の病態と支援 6 神経・筋疾患の病態と支援 二分脊椎と筋ジストロフィー 7 療育支援の考え方 生活支援の重要性 8 肢体不自由児の障害特性（1） 視知覚と知能 9 肢体不自由児の障害特性（2） 行動特性と障害受容 10 肢体不自由児の健康管理 11 肢体不自由児のリハビリテーション 12 肢体不自由児の社会性 13 肢体不自由児のコミュニケーション 14 肢体不自由児の就学 15 肢体不自由児の支援					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由児に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、2回のレポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子・下村 遼太郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験、医療機関における医師としての実務経験を基に、現場経験を通して得られてきている知見を活用した実践的な講義内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。</li> <li>・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (中澤担当)</li> <li>2 健康、病気、障害の概念 (中澤担当)</li> <li>3 病気・障害の受容とセルフケア (中澤担当)</li> <li>4 病弱者・障害者の心理的特性 (中澤担当)</li> <li>5 病弱者・障害者と家族の支援 (中澤担当)</li> <li>6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (中澤担当)</li> <li>7 小児科の立場からみた正常発達、新生児疾患、先天異常 (下村担当)</li> <li>8 子どもの病気：感染症、予防接種 (下村担当)</li> <li>9 子どもの病気：循環器疾患、免疫・アレルギー性疾患 (下村担当)</li> <li>10 子どもの病気：消化器疾患、呼吸器疾患 (下村担当)</li> <li>11 子どもの病気：血液・腫瘍性疾患、代謝内分泌疾患 (下村担当)</li> <li>12 子どもの病気：腎泌尿器疾患、神経筋疾患 (下村担当)</li> <li>13 小児科の立場からみた発達障害、小児精神疾患、児童虐待 (下村担当)</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題 (中澤担当)</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと (中澤担当)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図る。			90分	
	復習	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組む。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ等、授業内で提示された参考文献等を活用して、ノートを整理し、知識の定着を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等）についても理解を深めておきましょう。					
学 生 対 する 評 価	下村授業担当分 50点（定期試験 40点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 10点）、中澤担当授業分 50点（授業のまとめシート 15点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 15点、課題レポート 20点）、として、2名の教員の総合点（満点は100点）によって評価します。					
教 科 書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参 考 書 (購入任意)	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著：特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061532					



科 目 名	知的障害者教育課程論		担当教員名	郡司 竜平		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育課程編成の実際や仕組みを体系的に指導する科目					
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。					
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立</li> <li>2 障害児教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際</li> <li>3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際</li> <li>4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に</li> <li>5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級）</li> <li>6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準</li> <li>7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備</li> <li>8 教育課程の開発と編成 個別の教育支援計画、個別の指導計画</li> <li>9 各教科の指導</li> <li>10 領域の指導 自立活動</li> <li>11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習</li> <li>12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価</li> <li>13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発</li> <li>14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制</li> <li>15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的事項を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義におけるリアクションペーパー（30点）、試験（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019					
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）					

科 目 名	知的障害者教育方法論		担当教員名	郡司 竜平		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育内容を方法について体系的に指導する科目					
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な指導について理解を深める。					
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害のある子どもの理解と教育</li> <li>2 行動観察とアセスメント</li> <li>3 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について①</li> <li>4 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について②</li> <li>5 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について③</li> <li>6 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論、行動の形成と強化</li> <li>7 応用行動分析学に基づく支援（2）課題分析と連鎖化</li> <li>8 自立活動と個別の指導計画の作成（1）</li> <li>9 自立活動と個別の指導計画の作成（2）</li> <li>10 授業の工夫と改善（1）各強化の指導</li> <li>11 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導</li> <li>12 知的障害教育における ICT の活用について</li> <li>13 自閉スペクトラム症のある人の事例で学ぶ</li> <li>14 ダウン症のある人の事例で学ぶ</li> <li>15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	毎回の講義におけるリアクションペーパー（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019					
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 郡司竜平著『特別支援教育 ONE テーマブック ICT活用新しいはじめの一步』学事出版 2019					

科 目 名	肢体不自由者教育課程論		担当教員名	未定		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員が、肢体不自由教育の教育内容や方法、教育課程の基本について指導する科目					
学習到達目標	1 肢体不自由教育の歴史の変遷を説明することができる。 2 肢体不自由教育の教育課程の特徴を説明することができる。 3 肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を説明することができる。 4 肢体不自由教育に必要な専門性について自分の考えを述べるができる。					
授業の概要	肢体不自由教育の意義を理解するために、肢体不自由教育の歴史や制度、教育課程に関する知識を習得し、肢体不自由児への指導や支援の基礎について学ぶ。					
授業の計画	1 肢体不自由の定義 肢体不自由と教育 2 肢体不自由教育の歴史 肢体不自由教育の萌芽と発展 3 肢体不自由教育の現状 学習の場と対象 4 肢体不自由児の障害特性 障害特性と実態把握 5 肢体不自由教育の教育課程（1） 教育課程編成の基本 6 肢体不自由教育の教育課程（2） 教育課程に関する法令等の規定 7 肢体不自由教育の教育課程（3） 特別支援学校における教育課程編成 8 肢体不自由教育の教育課程（4） 小・中学校における教育課程編成 9 肢体不自由教育の教育課程（5） 自立活動 10 重度・重複障害の教育（1） 授業の実際① 11 重度・重複障害の教育（2） 授業の実際② 12 重度・重複障害の教育（3） 医療的ケア 13 肢体不自由児のキャリア教育 キャリア教育と進路指導 14 肢体不自由児の家族支援 肢体不自由児と家族への支援 15 肢体不自由教育の今後の課題 教師の専門性					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	復習では、講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）					
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					

科 目 名	肢体不自由者教育方法論		担当教員名	未定		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員が、肢体不自由児の実態把握、指導や支援、授業実践について指導する科目					
学習到達目標	1 個別の教育支援計画や個別の指導計画について説明することができる。 2 自立活動の意義について説明することができる。 3 肢体不自由児を対象とした学習指導案の作成をすることができる。					
授業の概要	肢体不自由教育の実践をするために必要な個別の諸計画を踏まえた指導内容や指導方法に関する知識を習得し、肢体不自由児への適切な指導について学ぶ。					
授業の計画	1 肢体不自由教育の実際 肢体不自由児の事例 2 肢体不自由児の実態把握 運動、コミュニケーション、社会性のアセスメント 3 個別の教育支援計画 他機関との連携 4 個別の指導計画 諸計画との関連性 5 自立活動（1） 自立活動の意義と目標や内容 6 自立活動（2） 指導の進め方 7 各教科の指導（1） 学習支援の方法 8 各教科の指導（2） 指導の工夫と留意点 9 各教科等を合わせた指導（1） 日常生活の指導、遊びの指導 10 各教科等を合わせた指導（2） 生活単元学習、作業学習 11 学習指導案の作成（1） 単元設定の理由、目標設定 12 学習指導案の作成（2） 学習内容 13 学習指導案の作成（3） 授業評価 14 授業改善 授業研究 15 肢体不自由教育のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由児に対する適切な指導及び必要な支援に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					
参考書（購入任意）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）					

科 目 名	病弱者教育論		担当教員名	高橋 和明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	病弱者教育の歴史と意義について理解し、病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について概要を把握するとともに病弱者教育の現代的課題について見通すことを目的とする。					
授業の概要	病弱者教育の歴史から病弱者教育が果たしてきた役割について学び、病弱者教育の意義と課題について学ぶ。病弱者教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱者教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨN 授業の進め方、学習マップ 1</li> <li>2 病弱者教育の歴史の変遷と定義 療育から教育へ</li> <li>3 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障、教育課程の整備</li> <li>4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患</li> <li>5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患</li> <li>6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患</li> <li>7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 重症心身障害</li> <li>8 死について考える ターミナル期にある子どもの教育</li> <li>9 自分自身を振り返る 命の選択</li> <li>10 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して</li> <li>11 拡大する病弱者教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患</li> <li>12 病弱者教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級</li> <li>13 病状に合わせた指導計画 集団の形成、授業時数の設定</li> <li>14 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート</li> <li>15 病弱者教育の現代的課題 医療の高度化、病気の多様化</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義中の協議課題 (20 点)、課題の取組状況 (30 点)、レポート (50 点) により評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)	病気の子どもの教育入門：クリエイツかもがわ 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説 (総則等編) 特別支援学校学習指導要領解説 (自立活動編) 特別支援教育の指導法：教育出版					

科 目 名	視覚障害者教育総論	担当教員名	星 祐子
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学 習 到 達 目 標	視覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。		
授 業 の 概 要	本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。 1. 視覚障害の概要（生理・病理）及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法		
授 業 の 計 画	1 視覚障害の生理及び病理と視覚管理① 視覚障害の定義、視覚器の構造と視覚障害 2 視覚障害の生理及び病理と視覚管理② 視機能と視覚障害、眼疾患と教育的配慮 3 視覚障害の心理特性、発達を規定する要因と発達の特徴、アセスメント、観察評価 4 視覚障害教育の歴史と制度、交流及び共同学習 5 教育課程と指導計画① 教育課程の意義、教育課程の編成と指導計画の作成 6 教育課程と指導計画② 学習指導要領 7 指導内容及び指導方法① 視覚障害教育における指導上の配慮事項、盲児の触知覚の特性、点字の読み書きの指導、空間概念の指導、歩行指導、言葉と事物・事象の対応の指導 8 指導内容及び指導方法② 弱視児の視知覚の特性 重複障害児の指導、教材教具		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	視覚障害の疑似体験や演習なども行うため、積極的に講義に参加すること。		
学生に対する評価	提示課題の取り組み状況（30点）、レポート課題（70点）により評価する。		
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布する。		
参考書（購入任意）	視覚障害教育入門 ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）		

科 目 名	聴覚障害者教育総論		担当教員名	庄司 和史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目					
学習到達目標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。					
授業の概要	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害</li> <li>2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮</li> <li>3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習</li> <li>4 障害の早期発見と早期療育 心理的支援、保護者支援、補聴器、人工内耳</li> <li>5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾啞学校、ろう学校、口話、手話</li> <li>6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導</li> <li>7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動</li> <li>8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案、まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	(1～4に関して) 生活の中で音や言葉が聞こえないときに起こる困難を具体的に考え、聴くことの重要性についてまとめる。 (5～8に関して) 幼児の様々な遊びの活動において言葉がどのように使われているか、また言葉が聞こえない幼児への代替手段を考える。			6時間 6時間	
	復習	(1～2に関して) 耳の構造の略図を描き、主要な部位の名称を覚える。 (3～4に関して) 難聴の早期発見・早期療育の意義をまとめる。 (5～8に関して) 聴覚障害教育における自立活動（言語指導）の意義を確認し、学習指導案の作成に取り組む。			3時間 3時間 6時間	
授業の留意点	聴覚障害の疑似体験なども行うため、積極的に参加すること。 授業資料を事前に配付するので授業日前に目を通し、流れをつかんでおくこと。 全体の復習（まとめ）として授業の中で提示する視覚教材（絵話教材）を使い、それぞれ授業計画案を立てて、レポートとして提出すること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021					

科 目 名	重複障害・発達障害の評価		担当教員名	奥村 香澄		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・特支：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。					
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活</li> <li>2 アセスメントの方法 観察、解釈、記録、聴き取り、定量的評価、定性的評価</li> <li>3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック</li> <li>4 医療的数値 脳波、脳血流量、血中酸素、その他の数値</li> <li>5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程</li> <li>6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義</li> <li>7 心理検査の理解③ WISC-IV、KABC-II、DN-CAS</li> <li>8 心理検査の実際① WISC-IV</li> <li>9 心理検査の実際② 田中ビネー式知能検査 V、新版 K 式発達検査</li> <li>10 心理検査の解釈① WISC-IV</li> <li>11 心理検査の解釈② 田中ビネー式知能検査 V、新版 K 式発達検査</li> <li>12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画</li> <li>13 保護者支援 障害受容、療育の見通し、家族との調整</li> <li>14 自立支援 本人受容、将来設計</li> <li>15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連する文献を読む。			90分	
	復習	授業の振り返り。			90分	
授業の留意点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版					



科 目 名	重複障害・発達障害の教育		担当教員名	奥村 香澄		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。					
授業の概要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用</li> <li>2 重複障害の教育 教育課程、指導法、自立活動</li> <li>3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加</li> <li>4 発達障害とは LD、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉スペクトラム症</li> <li>5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション</li> <li>6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校</li> <li>7 発達障害の教育課程における位置づけ 特別支援教育、自立活動</li> <li>8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知</li> <li>9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害</li> <li>10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害</li> <li>11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害、アスペルガー症候群</li> <li>12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応</li> <li>13 社会における発達障害 定義、啓発、受容</li> <li>14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労</li> <li>15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連図書を読む。			90分	
	復習	授業内容を振り返る。			90分	
授業の留意点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。					
学生に対する評価	講義における小レポート(20点)、課題の取組状況(30点)、レポート(50点)等で評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)	特別支援教育における障害の理解：教育出版					

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導		担当教員名	郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目					
学習到達目標	1 教育実習の意義や目的について説明することができる。 2 教育実習の内容を理解し、自らの課題を設定することができる。 3 学習指導案を作成することができる。 4 教育実習の総括と自己評価をし、新たな課題を設定することができる。					
授業の概要	教育実習に取り組むために、教育実習の意義や目的、流れを理解するとともに、指導案の作成をする。また、教育実習の学びを深めるために、教育実習で学んだことを教育実習報告会において発表と協議をする。					
授業の計画	1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容（必要な書類や手続き） 3 幼児児童生徒の実態把握 4 個別支援と集団による授業における指導計画の立て方 5 教科における指導案の作成 6 教科における指導案の改善 7 教科等を合わせた指導の指導案の作成 8 教科等を合わせた指導の指導案の改善 9 実習前の確認事項 10 教育実習報告会① 6・7月期間の実習者 11 教育実習報告会② 8・9月期間の実習者 12 教育実習報告会③ 10月期間の実習者 13 教育実習報告会④ 11月期間の実習者 14 教育実習報告会⑤ 12月期間の実習者 15 教育実習の振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまで履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を理解しておくこと。			20分	
	復習	実習後は報告会で発表する内容をまとめておくこと。			25分	
授業の留意点	教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に対する意欲を高めること。欠席・遅刻は十分に留意すること。					
学生に対する評価	提出物（30点）、教育実習報告会の発表（70点）					
教科書（購入必須）	必要に応じて資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	障害児教育実習		担当教員名	郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、教育実習生への指導経験を生かした指導をする科目					
学 習 到 達 目 標	1 特別支援学校の役割や機能について説明することができる。 2 障害児の指導方法及び保護者への支援方法を身に付けることができる。 3 特別支援学校教諭の業務内容や職業倫理について説明することができる。					
授 業 の 概 要	障害領域に対応した指導力を身に付けるために、特別支援学校での実習を通して、対象幼児児童生徒の実態把握、指導案の作成、教材研究、研究授業をする。					
授 業 の 計 画	1 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教師の専門性及び服務 2 幼稚部から高等部及び専攻科を通じた教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） 3 各教科等の授業参観 4 配属学級における学級経営の視点と方法 5 幼児児童生徒の実態把握 6 個別の指導計画と学級経営を基盤とした指導計画の作成 7 各教科等の指導計画の作成と教材研究 8 実習授業 9 研究授業 10 実習のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	これまでの学習の成果を活用し、積極的な態度で取り組むこと。欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。					
学 生 に 対 す る 評 価	学習指導、生活指導、幼児児童生徒理解、実習態度について実習校担当者が評価した評価表（80点）と実習日誌の記載内容（20点）で評価する。					
教 科 書 （購入必須）						
参 考 書 （購入任意）						

科 目 名	保育指導論演習		担当教員名	棚橋 裕子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての経験をもつ教員が、幼稚園教育における幼児理解、保育記録の意義の理解と作成、全体計画の作成、指導の方法と内容について、演習や指導案作成、発表を通して幼稚園教諭としての指導法、技法等を修得させる科目					
学習到達目標	<p>1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。</p> <p>2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例検討や演習を通して自ら考えられる力量を身につける。</p>					
授業の概要	保育指導論で学んだ知識をさらに深めるため、いくつかの事例についてグループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が適切な指導方法であるかどうかについて再考する。幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育指導論での学びの確認</li> <li>2 保育3法令と保育内容</li> <li>3 保育における環境の意義① 子どもの主体性と環境のつながり</li> <li>4 保育における環境の意義② 子どもが遊び込むための環境設定</li> <li>5 保育における環境の意義③ 遊びがひろがる環境設定</li> <li>6 子ども理解に基づく保育① 実践記録に学ぶ</li> <li>7 子ども理解に基づく保育② 子どもの経験と援助のつながり</li> <li>8 記録の意義と内容① 写真や映像を通して子どもの経験を捉える</li> <li>9 記録の意義と内容② 保育における ICT の活用</li> <li>10 記録の意義と内容③ 保育記録の作成</li> <li>11 記録の意義と内容④ 保育記録作成の振り返り</li> <li>12 保育計画の作成と保育展開① 模擬保育に向けて</li> <li>13 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育</li> <li>14 保育計画の作成と保育展開③ 模擬保育の振り返り</li> <li>15 まとめ 子ども理解と保育者の役割についての振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に各自でシラバスを確認の上、必要な情報について調べたり収集したりしておくこと。			45分	
	復習	各自、またはグループで振り返りを行い、必要な情報についてまとめたり共有したりすること。				
授業の留意点	受講者の関心動向によって、内容構成や順序等の変更がある場合がある。また、PCを使用する場合があるため、可能であれば準備をして臨むこと。その際は、メールにて事前連絡を行う。					
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末レポート60点、グループワーク等における積極的な態度20点					
教科書 (購入必須)	幼稚園教育要領解説『フレーベル館』 その他、適宜資料を配布する。					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	家庭支援実践演習		担当教員名	傳馬 淳一郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について事前に講義し、子育て支援の場に演習として参加する。現場の保育士から子育て支援における保育者の役割について指導を受け、実際の親子に関わりながら家庭支援における保育士の役割を経験的に学ぶ演習科目					
学習到達目標	(1) 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 (2) 子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援を理解する。 (3) 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を学ぶ。 (4) 地域子育て支援センターなど家庭支援の実際に触れながら、保育士の役割と専門性について学ぶ。					
授業の概要	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この演習科目では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 名寄市における子育て支援の実際</li> <li>3 家庭支援の実際と保育士の役割</li> <li>4 演習：フィールドワーク（1）子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る</li> <li>5 演習：フィールドワーク（2）親子の実際を知る</li> <li>6 「子育て家庭の実際」と「子育て支援センターの実際」の日記作成と振り返り</li> <li>7 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理</li> <li>8 演習に向けての準備②コミュニケーション演習</li> <li>9 演習：フィールドワーク（3）環境設定</li> <li>10 演習：フィールドワーク（4）保護者とのコミュニケーション</li> <li>11 「環境設定」と「保護者とのコミュニケーション」の日記作成と振り返り</li> <li>12 演習：フィールドワーク（5）保護者との関係づくり</li> <li>13 演習：フィールドワーク（6）子育て支援をイメージしたかかわり</li> <li>14 「保護者との関係づくり」と「子育て支援をイメージしたかかわり」の日記作成と振り返り</li> <li>15 演習の振り返りとまとめ～家庭支援における保育者の役割と専門性～</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	必修科目「子ども家庭支援論」で学んだ内容を振り返り、演習に備える。			90分	
	復習	記録（日記）を作成して振り返る。			90分	
授業の留意点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター）での演習を行うため、日程の調整があります。子育て支援拠点等の子育てに関する社会資源について、事前学習を行ってください。フィールドワーク後は、各自日記による振り返りを行い、提出を求めます。					
学生に対する評価	演習後の日記（振り返り）提出（20点×3回）と期末レポート（40点）で評価する。					
教科書（購入必須）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 ※子ども家庭支援論と共通					
参考書（購入任意）	中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院					

科 目 名	地域との協働 I		担当教員名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>IPE（専門職連携教育）は、三年間の積み上げ型教育となる。その最初の講義となる「地域との協働 I」では、①IPE の概念および本学の連携教育の特徴である「地域型 IPE」を理解し説明することが出来る②「地域との協働 II」以降地域コミュニティと連携する際の基礎となる本学の歩みと地域との関係性について理解し説明することが出来る③IPE を進める上で基礎的な能力となる、「人物や物事を先入観なく捉え、相手（地域）に関心を持つ」能力を養成する。</p>					
授業の概要	<p>全体講義では IPE に必要な概念の理解、本学連携教育の流れについて解説した後、「地域との協働 II」以降で必要となる地域コミュニティとの連携協働の際に必要な、本学と地域との関係性について本学発展の歴史から概観する。次いで複数の教員による多様な内容のゲストトークを視聴し、先入観無く人物を捉え、多様な考え方を受け入れ・理解する素地を養う。最後に IPE および IPW（多職種連携）において必須のスキルとなるグループワークの進め方について講義する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（オンデマンド講義もしくは対面講義）</li> <li>2 本学の歴史的経緯と地域との関わり①：市立名寄短期大学の開学と発展（オンデマンド講義もしくは対面講義）</li> <li>3 本学の歴史的経緯と地域との関わり②：短大から名寄市立大学への改組と発展（オンデマンド講義もしくは対面講義）</li> <li>4 多種多様な分野の理解①（オンデマンド講義）</li> <li>5 多種多様な分野の理解②（オンデマンド講義）</li> <li>6 多種多様な分野の理解③（オンデマンド講義）</li> <li>7 グループワーク演習：グループワークの進め方（オンデマンド講義：0.5 コマ）</li> <li>8 グループワーク演習（対面講義）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			45分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			45分	
授業の留意点	<p>配信日の間隔が一定では無いため、視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク（対面講義）においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>					
学生に対する評価	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域との協働Ⅱ		担 当 教 員 名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が”その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。地域との協働Ⅱでは、これらの定義と全体目標に基づき、以下の2点の能力を養成する。 第1に、このIPWの基盤となる”専門職間の成熟した人間関係”を形成する。 第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようにする。					
授業の概要	本講義は3つのパートから構成される。 ①IPWおよびIPEの概念を講義によって学び、地域活動の意義・目的について理解する。 ②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に地域活動を行う。地域活動を実施する際に地域系IPEとして、対人援助職としての自身の視点を持ちつつ、地域コミュニティをフィールドとした実践的活動を行う。その際二つのコアドメインである「協働する職種で患者や利用者、家族、地域にとっての重要な関心事/課題に焦点を当て、共通の目標を設定することができる」、「職種背景が異なることに配慮し、互いに、互いについて、互いから職種としての役割、知識、意見、価値観を伝え合うことができる」および、コア・ドメインを支え合う四つのドメイン「職種としての役割を全うする能力」「自職種を省みる能力」「他職種を理解する能力」「関係に働きかける能力」について学ぶことができるよう、ねらいを提示する。 1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。 2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する。 3) 地域活動から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する。 指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。 ③学びを深める共通コンテンツにより講義・演習を行う。 自らが参加した地域活動による”一つの学び”に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例からIPEを行う。					
授業の計画	1 オリエンテーション：講義方法の説明と地域活動のグループ分け 2 IPWおよびIPEの概念について 3 地域活動の意義と目的について 4 グループ別ガイダンス 5-11 グループ別地域活動 12-13 グループ別地域活動のまとめ 14 共通コンテンツによる学びの拡張 15 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			45分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			45分	
授業の留意点	グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」(以下行動指針)に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールやMoodle等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。					
学生に対する評価	オンライン講義にあたっては毎回の小レポート (20点)、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート (40点)、および最終レポート (40点) で評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)						

科 目 名	地域との協働Ⅲ		担当教員名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>地域との協働Ⅰ・Ⅱにおける学びを踏まえ、①IPW (Inter-professional Work) の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。</p> <p>具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。</p>					
授業の概要	<p>①全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて学ぶ。一部ロールプレイングやグループワークなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。</p> <p>②協働ゼミ・社会活動を通じて連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。与えられた大テーマのもとで、PBL (Problem Based Learning : 問題解決型学習) の手法を用いて自ら課題の析出を行い、既存研究の確認・事例調査・分析・考察・発表 (学びの共有) を行う。自ら多様な地域行事に参画あるいは自ら企画することで、連携協働の実践と考察を行う。</p> <p>③「地域との協働Ⅱ」の地域活動に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。</p> <p>④まとめとして、自らのコーディネーション能力について、全体講義で学んだマネジメント論等の観点から振り返りを行い、グループワークを行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p>					
授業の計画	<p>1-2 オリエンテーション</p> <p>3 専門職連携におけるマネジメント① ((全体講義)</p> <p>4 専門職連携におけるマネジメント② (全体講義)</p> <p>5 専門職連携におけるマネジメント③ (全体講義)</p> <p>6 専門職連携におけるマネジメント④ (全体講義)</p> <p>7-8 専門職連携におけるマネジメント⑤⑥ (グループワーク)</p> <p>9 協働ゼミ・社会活動のガイダンス</p> <p>10-16 協働ゼミグループ別活動・個人別社会活動</p> <p>17-23 地域活動におけるマネジメント実践</p> <p>24-26 共通コンテンツによる学びの拡張</p> <p>27 リーダーシップおよびマネジメント実践</p> <p>28-29 マネジメント実践の振り返り</p> <p>30 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			90分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			90分	
授業の留意点	<p>グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。</p> <p>地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」(以下行動指針)に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールやMoodle等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>					
学生に対する評価	<p>全体講義にあたっては毎回の小レポート (20点)、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート (40点)、および最終レポート (40点) で評価する。</p>					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)						



科 目 名	教育実習		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。</p> <p>2. 観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</p> <p>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</p> <p>5. 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</p>					
授業の概要	実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわることで、保育について総合的に学ぶことができる。					
授業の計画	<p>1 幼稚園、認定こども園の役割と機能 (1)幼稚園、認定こども園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開</p> <p>2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり</p> <p>3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全</p> <p>4 保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価</p> <p>5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭、保育教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭、保育教諭の役割と職業倫理</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<p>実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。</p> <p>実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p> <p>予習：シラバスを確認の上、必要な情報についてまとめておく。</p> <p>復習：学んだことをまとめておく。</p>					
学生に対する評価	実習先での評価 40%、 実習日誌と事後レポート 30%、受講態度 30%					
教科書（購入必須）	テキスト・参考文献は、実習指導を参照					
参考書（購入任意）						

科 目 名	教育実習指導		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての経験をもつ教員が、幼稚園教育における幼児理解、保育記録の意義の理解と作成、全体計画の作成、指導の方法と内容、保護者支援等について、演習や指導案作成、発表を通して教育実習（幼稚園）の実践に備えるための内容・方法等を修得させる科目					
学習到達目標	<p>1. 教育実習の意義・目的を理解する。</p> <p>2. 実習の内容を理解しし、自らの課題を明確にする。</p> <p>3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</p> <p>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>					
授業の概要	幼稚園教諭としての基礎的な知識や技能、態度等を身に付けるため、実践に即した教材を通して学ぶ。事前指導では、幼稚園教育要領に基づき、幼稚園の機能や目的、保育者の役割等についての理解を深め、保育の内容や指導計画等、実践に向けた準備を行う。事後指導においては、実習の評価、反省を通して、個々の課題を明確化する。その際、グループワークを通して、専門的視点を養う。また、学びの集大成として実習報告会を行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、教育実習の意義と目的</li> <li>2 教育実習に必要な視点と心構え</li> <li>3 様々な事例に基づいた援助の多様性と保育者の役割</li> <li>4 実習日誌と記録の書き方～全体の流れ、手順、PCの使用について～</li> <li>5 実習日誌と記録の書き方～グループワーク～</li> <li>6 保育における指導計画、指導案の位置づけ</li> <li>7 指導計画、指導案の作成と保育の展開～事例を通して～</li> <li>8 指導計画、指導案の作成と保育の展開～発表～</li> <li>9 実習に関する諸手続き・直前指導</li> <li>10 教育実習後の振り返りと学びのおさえ、まとめに向けて</li> <li>11 教育実習の振り返り～まとめの要点の確認～</li> <li>12 教育実習の振り返り～グループワーク 1～</li> <li>13 教育実習の振り返り～グループワーク 2～</li> <li>14 教育実習報告会（前半）</li> <li>15 教育実習報告会（後半）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	幼稚園教育要領、並びに授業に必要なテキストを読み授業に備える。			45分	
	復習	授業内容を振り返り、まとめる。				
授業の留意点	<p>実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。</p> <p>なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p> <p>予習：事前に必要な情報についてまとめておくこと。</p> <p>復習：学んだことを各自でまとめておくこと。</p>					
学生に対する評価	提出物 50%、講義に臨む姿勢 50%（グループワーク・ディスカッション等）					
教科書（購入必須）	<p>（保育実習指導と共通）</p> <p>『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座 12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房</p> <p>小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育実習 I		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博・鈴木 勲・小山 貴博		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目					
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</li> </ol>					
授 業 の 概 要	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。					
授 業 の 計 画	<p>&lt; 保育実習 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所の役割と機能（保育所保育士指針の理解と保育の展開）</li> <li>2 子ども理解（1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達の理解と援助</li> <li>3 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容（3）子どもの生活や遊びと保育内容（4）子どもの健康と安全</li> <li>4 保育の計画、観察、記録（1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価</li> <li>5 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理</li> </ol> <p>&lt; 居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</li> <li>2 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた対応</li> <li>3 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた対応（3）子どもの活動と生活環境（4）健康管理、安全対策の理解</li> <li>4 計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価</li> <li>5 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。					
学生に対する評価	実習先からの評価 40 点、学内評価（日誌の提出、報告会での報告、報告書の提出）40 点、レポート課題 20 点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房					

科目名	保育実習指導 I		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博・鈴木 勲・小山 貴博		
学年配当	3年	単位数	2単位		開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士：必修	
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目					
学習到達目標	1. 保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。					
授業の概要	保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。					
授業の計画	保育実習指導 I 保育所		保育実習指導 I 施設			
	1 保育実習の概要		1 施設実習 I の目的と概要			
	2 保育実習 I 保育所の目的と概要		2 児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識希望調査			
	3 保育実習の意義・目的・内容の理解		3 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院）			
	4 保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など）		4 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等）			
	5 プライバシーの保護と守秘義務		5 児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題			
	6 実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など）		6 児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え			
	7 実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など）		7 子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮			
	8 保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど）		8 プライバシーの保護と守秘義務			
	9 実習施設（保育所・認定こども園）の理解		9 実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認			
	10 実習に関する諸手続き（個人票の作成、検便・健診などの確認）		10 事後指導 個人の振り返り			
	11 実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて）		11 事後指導 グループでの振り返り			
	12 事後指導 実習内容の振り返り		12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等			
	13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価）		13 事後指導 評価の確認			
	14 事後指導 課題の整理		14 事後指導 課題の整理			
	15 実習総括		15 実習総括			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。			45分	
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。					
学生に対する評価	実習先理解の事前学習 20点、事前指導課題（実習計画書） 30点、事後指導課題（日誌の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房					

科 目 名	保育実習Ⅱ		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>6. 保育士としての自己課題を明確にする。</li> </ol>					
授業の概要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所の役割や機能の具体的展開</li> <li>2 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 生活の流れや展開の把握と保育士等の支援</li> <li>3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援</li> <li>4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> <li>5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> <li>6 自己課題の明確化</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。					
学生に対する評価	実習先からの評価 40 点、学内評価（日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出）40 点、レポート課題 20 点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ （※保育実習指導Ⅰと共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房					

科 目 名	保育実習指導Ⅱ		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目					
学習到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の概要	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の計画	1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容（実習の段階、子ども理解、保護者支援など） 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え（プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など） 6 実習記録の意義・方法（日誌の記入など） 7 保育計画、保育指導の理解 その1（園の保育計画、カリキュラムなど） 8 保育計画、保育指導の理解 その2（指導案の作成） 9 保育計画、保育指導の理解 その3（模擬保育） 10 保育計画、保育指導の理解 その4（指導案の作成と模擬保育の振り返り） 11 実習課題の明確化（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価（事務確認を含む実習内容の振り返りなど） 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討） 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。			45分	
授業の留意点	復習					
学生に対する評価	実習先理解の事前学習 20点、事前指導課題（実習計画書） 30点、事後指導課題（日誌・指導案の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ （※保育実習指導Ⅰと共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房					

科 目 名	保育実習Ⅲ		担当教員名	鈴木 勲・小山 貴博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童養護施設等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。</li> <li>2. 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</li> <li>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>4. 保育士としての自己の課題を明確化する。</li> </ol>					
授業の概要	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</li> <li>2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受容し、共感する態度</li> <li>(2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</li> <li>(3) 個別支援計画の作成と実践</li> <li>(4) 子どもの家族への支援と対応</li> <li>(5) 多様な専門職との連携</li> <li>(6) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>3 保育士の多様な業務と職業倫理</li> <li>4 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各施設の留意事項を順守すること。					
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、提出物 50 点					
教科書（購入必須）	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』					

科 目 名	保育実習指導Ⅲ		担当教員名	鈴木 勲・小山 貴博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目					
学習到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の概要	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の計画	1 施設実習Ⅲのあり方 2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 希望調査 3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ 4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ 5 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容 6 児童福祉施設（保育園以外）の記録と心構え 7 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 8 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 9 子どもの状態に応じた適切なかわり 10 保育士の専門性と職業倫理 11 実習前最終確認 12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認 13 第事後指導 評価の確認 14 事後指導 課題の明確化 15 実習総括					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	児童福祉施設等に関心を持ち、施設入所児童の支援のあり方について、自分なりの考えをまとめておく			20分	
	復習	講義の内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく			25分	
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。対面、場合によっては遠隔。					
学生に対する評価	講義内での課題 50 点、その他の提出物 50 点					
教科書（購入必須）	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』					



科 目 名	卒業研究		担当教員名	社会保育学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学的、論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明確にする。</li> <li>・ 四年間の学びを踏まえて設定した研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。</li> </ul>					
授業の概要	科学的・論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明らかにし、四年間の学習・演習・実習を踏まえて設定した研究テーマに基づき、研究計画を立て、卒業研究を行う。担当教員の指導のもと、研究計画書の作成から論文作成、発表までの過程について学ぶ。					
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業研究に関するオリエンテーション</li> <li>・ 卒業研究課題の決定</li> <li>・ 研究計画の作成</li> <li>・ 調査、研究の実施</li> <li>・ データの整理および分析</li> <li>・ 卒業論文の本文作成</li> <li>・ 卒業論文の提出および発表</li> </ul>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	文献講読やフィールド調査、論文執筆等、前回授業で確認された課題に取り組む。			45 分	
	復習	授業の中での検討を振り返り、調査等の補足、記述の修正等を行う。			45 分	
授業の留意点	卒業研究に関わるガイダンス及び研究室紹介は、3年次に行うので、掲示等による指示に従うこと。					
学生に対する評価	取り組み状況、卒業論文及び発表の内容により総合的に評価する。					
教科書 (購入必須)	担当教員の指示による。					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	教職・保育実践演習		担当教員名	石本啓一郎・及川智博・鹿嶋桃子・菊池稔・高島裕美・ 棚橋裕子・傳馬淳一郎・堀川真・三国和子・三井登		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、実践的な演習を行う科目。					
学習到達目標	1年次から4年次までの学修内容を省察することで、教員および保育者として必要な専門性を確認すると同時に、引き続き、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を明確化する。					
授業の概要	フィールドワークをとおして現場の実践者と語り合う会、学生主体による「シンポジウム」の開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見していく。 さらに、教員および保育者として求められる4つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全15回を通じて総合的に学修する。					
授業の計画	1 インTRODクシヨンー4年間の学修を捉えなおす講義としてー 2 「社会保育」を考える（1）ー領域横断講義 社会編ー 3 「社会保育」を考える（2）ー領域横断講義 臨床編ー 4 幼児理解のあり方を再考する 5 家庭・地域との連携を再考する 6 児童養護に携わる職員と語りあう 7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう 8 保育と地域とのつながりを考える（1）ーフィールドワーク事前準備ー 9 保育と地域とのつながりを考える（2）ーフィールドワークー 10 保育と地域とのつながりを考える（3）ーフィールドワーク総括ー 11 4年間の学びを振りかえる（1）ーシンポジウム企画ー 12 4年間の学びを振りかえる（2）ーシンポジウム事前準備ー 13 4年間の学びを振りかえる（3）ー4年生最終シンポジウム 1日目ー 14 4年間の学びを振りかえる（4）ー4年生最終シンポジウム 2日目ー 15 活動・学修内容のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習・復習として、ワークシート（冊子）が位置付く。予習として、各回の活動に臨むのに先立って、活動のねらいや自分なりの課題を、ワークシートへの記載をとおしてあらかじめ明確にしておく。			90分	
	復習	復習として、各回の活動をとおして新たに身に付けたことや克服した課題についてワークシートに記載し、振り返りとする。			90分	
授業の留意点	・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻をしないよう十分に留意すること。 ・これまでの4年間の学修内容について、自ら振り返ろうとする主体的な受講態度が求められる。					
学生に対する評価	各回の活動・学修内容まとめワークシート（80点）、グループでの活動・学習内容まとめ提出課題（各10点）					
教科書（購入必須）	指定しない。					
参考書（購入任意）	各内容に応じて、その都度指示・提示する。					

科 目 名	専門演習 I		担当教員名	社会保育学科教員		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の専門基礎演習での学修を踏まえ、より良い集団を形成する能力を身につける。</li> <li>・演習により、子育てや保育に関わる問題意識を高めることができる。</li> <li>・幅広い視野から保育の課題を捉え、主体的に学ぶ姿勢を身につける。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>子育てや保育の現状と課題や将来像について、少人数での演習（文献の講読、レポート作成、ディスカッション等）を行う。また、保育の対象である子どもが育つ社会のあり方について、人権・平和・異文化理解の視点から、クラス全体で学ぶ。この学修は合宿の形態をとり、主にゲストスピーカーによる講演および関連施設でのフィールドワークを予定している。また、少人数のグループは1年次における専門基礎演習のフォローアップゼミと位置づける。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各グループにおけるオリエンテーション</li> <li>2 子育て・保育の現状と課題①</li> <li>3 子育て・保育の現状と課題②</li> <li>4 子どもが育つ社会と人権・平和・異文化理解①（合宿）</li> <li>5 子どもが育つ社会と人権・平和・異文化理解②（合宿）</li> <li>6 子どもが育つ社会と人権・平和・異文化理解③（合宿）</li> <li>7 子育て・保育の未来</li> <li>8 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回に関わる文献を読み、概要を把握し疑問点を整理しておく。			90分	
	復習	授業を振り返り、新たに追加された視点等を整理しておく。			90分	
授 業 の 留 意 点	担当の各教員により別途指示する。					
学 生 対 対 する 評 価	授業態度及びレポート提出により評価する。					
教 科 書 (購入必須)	別途指示する。					
参 考 書 (購入任意)						

科目名	専門演習Ⅱ		担当教員名	社会保育学科教員		
学年配当	3年	単位数	1単位		開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修		資格要件	
対応するディプロマ・ポリシー	1 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的、論理的な思考及び表現を身につける。</li> <li>自ら選択した研究分野に関する学修をもとに、研究テーマを設定することができる。</li> </ul>					
授業の概要	4年次における卒業研究のプレゼミと位置づけ、担当教員が示した研究分野に関する演習（文献講読、レポート作成、ディスカッション等）を行う。その他、ゲストスピーカーによる講演やフィールドワークを行う場合もあり、多様な学修形態をとる。それを基盤とし、科学的・論理的な思考及び表現を身につけ、4年次に向けた研究テーマを設定していく。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>各グループにおけるオリエンテーション</li> <li>研究分野に関する基礎的事項</li> <li>研究分野に関する文献講読とディスカッション①</li> <li>研究分野に関する文献講読とディスカッション②</li> <li>研究分野に関する調査とフィールドワーク①</li> <li>研究分野に関する調査とフィールドワーク②</li> <li>データの整理および分析</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>※以上は一例であり、具体的には担当教員から指示される。</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	文献講読や調査、データ整理等、前回授業で確認された課題に取り組む。			90分	
	復習	授業を振り返り、自己の学修を整理しておく。			90分	
授業の留意点	卒業研究に関わるガイダンス及び研究室紹介は、3年次に行うので、掲示等による指示に従うこと。					
学生に対する評価	取り組み状況、卒業論文及び発表の内容により総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	担当教員の指示による。					
参考書（購入任意）						